

2022 年報

ANNUAL REPORT of SEIREI FUKUROI MUNICIPAL HOSPITAL

社会福祉法人 聖隷福祉事業団
袋井市立 聖隷袋井市民病院

seirei.or.jp/fukuroi/index.html

病院理念

『私たちは、患者と同じ視線を持ち、
地域に信頼される病院を
目指して歩み続けます』



聖隷袋井市民病院

経営方針

1. 地域ニーズに対応した安心・安全で質の高い医療サービスの提供
2. 急性期病院・地域診療所との懸け橋となる連携体制の構築
3. 在宅復帰や療養施設への入所を支援し、地域全体として切れ目のない医療の提供
4. 安定した経営基盤の確立
5. 働きがいのある職場づくりと人材育成

目次

■年報発刊にあたって.....	1
■開設 10 周年を迎えて.....	2
■開院から十年の歩み（沿革、トピックス）.....	3
■2022 年度事業計画	
・ 2022 年度事業計画.....	7
・ 2022 年度事業報告.....	9
■病院概要	
・ 病棟構成・職員状況.....	11
・ 組織図.....	13
・ 委員会会議名簿.....	14
・ 委員会活動報告.....	15
・ プロジェクト報告.....	20
・ NR 協働会議・委員会.....	22
■病院統計	
・ 各種統計.....	24
・ 患者満足度調査結果.....	27
■財務統計.....	28
■業務実績	
・ センター部門（医療安全管理室・感染管理室・退院支援室・在宅支援室）.....	29
・ 診療部.....	31
・ 看護部.....	32
・ 3 階病棟.....	33
・ 4 階病棟.....	34
・ 5 階病棟.....	35
・ 外来.....	36
・ 診療技術部門	
・ リハビリテーション室.....	37
・ 薬剤室.....	38
・ 臨床検査室	
・ 画像診断室.....	39
・ 栄養管理室	
・ 事務課.....	40
■学術実績（講演・学会発表、著書・論文）.....	41
■教育実績（階層別研修、NR 研修、委員会主催研修、実習生受け入れ）.....	43

2023年5月1日の朝、袋井は前日までの雨も上がって晴れ上がり、透き通った青空には丸3年間の長いコロナ禍のトンネルをようやく抜け出せそうな明るい雰囲気を感じました。この日、聖隷袋井市民病院は設立からちょうど10年の節目、10歳の誕生日を迎えました。宮本名誉院長をはじめ、これまで当院の運営に関わってこられた皆さんの感慨もひとしおだったものと思います。皆さんのこれまでのご苦勞、ご健闘、ご活躍に改めて深く敬意を表します。

当院が産声を上げた2013年は我が国の高齢化率が25.1%となり、65歳以上の人口がついに4人に1人以上となった年でした。それから10年間で日本の人口は約250万人も減少し、2024年にはついに高齢化率は30%を越えました。そのような中、医療提供の在り方にも様々な変化がおきています。

私が当院へ赴任しましたのは2022年10月のことでした。それまで長年、急性期病院に在職していましたので、回復期、慢性期医療の重要性に関して十分な認識を持っておりましたが、袋井で実際に患者さん方と接してみると、高齢者が急増している社会では、当院が提供しているような医療はますます重要になるということを感じた次第です。

当院は、中東遠総合医療センターのような急性期病院が本来の業務に専念できるように、その後方支援病院としてリハビリテーションなど継続的な治療が必要な患者さんや、療養治療が必要な患者さんなどを主として受け入れています。そして地域の診療所、介護施設、在宅療養、訪問看護等をつなぎ、地域全体での切れ目のない医療・介護の提供体制を支えていく、言わば“架け橋”としての機能を果たしています。住民の皆さんが、将来にわたって住み慣れた地域で安心して生活していくために、国が意図している地域包括ケアシステムの拠点としても、当院に求められる役割は今後ますます大きなものとなってくると考えています。

そのような当院が、今後も医療提供の質を高めて行くためには、常に時代のニーズに応え続けていく必要があると考えています。①慢性疾患に対応する医療体制の充実、②在宅医療などの地域医療の充実、③健康の維持や予防に重点を置いた医療サービスの提供、④人工知能(AI)やロボット技術の活用、⑤医療と介護の一体化など様々な課題を想定しています。とは言え、どんなに時代やしくみが変わっても、医療提供のベースはあくまで人間関係にあります。聖隷福祉事業団では基本理念として隣人愛をかかげています。この隣人愛の精神を忘れず、当院の病院理念である「私たちは、患者と同じ視線を持ち、地域に信頼される病院を目指して歩み続けます」



を地道に達成していくことが病院運営の基本と心得ています。これからも患者さんへの共感的な態度を背景に、患者さんと優しくコミュニケーションをとっていく姿勢を忘れないよう務めてまいります。

この年報は当院創設以来、初めて上梓するものです。設立20年目、30年目を目指しての10年目のマイルストーン、未来への通過点の記録としてご覧いただければ幸いです。

病院長 林泰広

それは 2011 年の夏だった。すでに中東遠総合医療センター設立の話は公になっていたが、統合により余剰になった病床数を利用して、袋井市に後方病院を作るという案があるとのことで、私はその計画に乗ったのだった。市の事業なので議会で決まらないと動けないため、結局 2012 年の 9 月になって、やっと袋井のプロジェクトが正式に立ち上がり、具体的な作業が始まった。翌 2013 年 2 月には赴任する顔ぶれも決まり、集まって病院理念などを議論した。青臭くても意味のある話し合いだったと思っている。

このプロジェクトは建物こそ旧袋井病院の流用だが、組織としては全く新たなもので、聖隷として以前に手掛けていた国立病院の移譲とは根本的に異なり、まさに新しい病院を作るという事業だったわけである。当然多くの困難が待ち受けていたが、紆余曲折を経て、何とか 2013 年 5 月 1 日に開院、翌 6 月 1 日に診療開始となった。それから 10 年あまりが経ったことになる。

本院が目指す姿は基本的に亜急性期から慢性期の医療を担うということだが、将来的に袋井地域での医療福祉を連携させた事業に発展させるという漠然とした目標もある。また聖隷らしい医療サービスをこの地域で実践しようという意気込みも密かに抱いていた。ともあれスタート時は病院としての機能を整えるのが精一杯で、1 病棟でスタートし、常勤医は私一人、聖隷の各施設からの支援を得て、何とか診療を始めたのだった。当時挨拶回りなどで医師の数を聞かれるのが一番の苦痛だったのだが、その後、徐々にスタッフも揃い、建物や設備も順次整備して当初計画通り一般・療養・回復期リハの 3 病棟 150 床の病院になった。経営的にも安定し、補助金は頂いていたものの、予算を上回る収益をあげられるようになっていた。

やがて新卒のスタッフの採用も始めたが、これも開設当初には考えられないことであり、病院の中身は少しずつ充実してきていた。スタッフおよび組織としての成長をはっきりと感じたのは 2020 年の病院機能評価受審の際だった。自分たちのやっている医療を自分の言葉で語る姿は感動的で、知らない間にちゃんと育ててくれているという実感が得られ、ここまで軌道に乗せたのなら私はいつ退任してもよいと改めて思ったものである。

もちろん現在も課題もいろいろあり、これからの地域への貢献として、福祉事業との連携は充実させる必要があり、特に在宅医療の支援という役割をどのように具体化するかは現実的なテーマだと考えている。人はどんどん入れ替わっており、新しい世代が院長の元で具体的な成果をあげてくれることを期待している。聖隷にとって、新しい事業に踏み出すことは、常にフロンティアを作ってゆくようなものだろう。常にその地域のニーズを把握して、期待される役割を果たすべく挑戦し続けることが求められているのだ。

それにしても、みんなで埃まみれの部屋を掃除し、山積みの廃棄物の中からまだ使えるような物を探し回ったという開院当初のエピソードも今は懐かしい。この 10 年で確実に変わったのだ。私としてはこの計画に乗って良かった。地域や事業団にとっても多分……



名誉院長 宮本恒彦

開院から10年の歩み（沿革）

1945年	5月	日本医療団袋井健奨寮として産業労働省のため開設
1947年	11月	協立袋井病院開設（袋井市高尾）
1955年	8月	共立袋井病院開設（142床）（袋井市久能）
1971年	6月	袋井市が受け継ぎ袋井市立袋井市民病院と改称
1979年	12月	袋井市久能地内に移転新築オープン（305床）
1989年	10月	西棟棟150床増設（許可病床455床、稼働病床400床）
2006年	11月	許可病床400床に変更
2013年	5月	袋井市立聖隷袋井市民病院開設（聖隷福祉事業団が指定管理者受託）、一般病棟50床,脳神経外科・内科標榜 宮本恒彦院長, 病院長就任 オーダリングシステム（Mirai's）導入
	6月	保険診療開始（7名の入院患者）
2014年	4月	整形外科標榜
	7月	CT更新
	8月	西棟増築工事完了,一般病棟50床移設
	9月	療養病棟50床許可,36床オープン
2015年	5月	袋井市総合健康センター（地域包括ケア推進係、保健、社会福祉協議会などの福祉機能）と同一建物内での運営
	8月	摂食機能療法算定開始
2016年	4月	3階回復期リハビリ病棟オープン（37床）,リハビリテーション科標榜 院内託児所「ふくろうのもり」開設
	5月	訪問歯科診療受入（袋井市内の歯科医院にて）
	6月	療養病棟50床オープン
	10月	売店（グッドライフ）オープン,喫茶スペース設置
2017年	1月	上部消化管内視鏡検査開始
	9月	休日リハビリテーション提供体制加算施設基準取得（リハビリ初期加算算定開始）
	11月	退院支援部門「退院支援室」設置（退院支援加算算定開始）
2018年	2月	開院5周年院内コンサート
	2月	3階回復期リハビリ病棟フルオープン（37→50床）
	3月	MRI1.5T 更新 退院前訪問指導料算定開始
	4月	第二期指定管理期間開始
	6月	電子カルテ導入検討プロジェクト開始
	6月	リハビリテーション外来開始
	11月	袋井商業高等学校による院内コンサート開催
2019年	2月	感染管理加算2、認知症ケア加算2算定開始
	4月	訪問リハビリテーション事業開始 「在宅支援室」設置 データ提出加算1算定開始
	9月	電子カルテ（MegaOakHR）稼働
	10月	第1回市民公開講座開催
2020年	2月	医療機能評価機構による病院機能評価受審 ~新型コロナウイルス感染症の流行開始~
	7月	「在宅支援室」活動開始 医療機能評価機構による病院機能評価の認定
	10月	発熱外来開始
2021年	4月	コロナワクチン接種開始 ボトックス療法開始
2022年	5月	リハビリテーション科訪問診療開始（13日）
	7月	静岡県訪問看護出向事業に参画
	10月	宮本恒彦院長, 名誉院長就任 林 泰広院長, 病院長就任

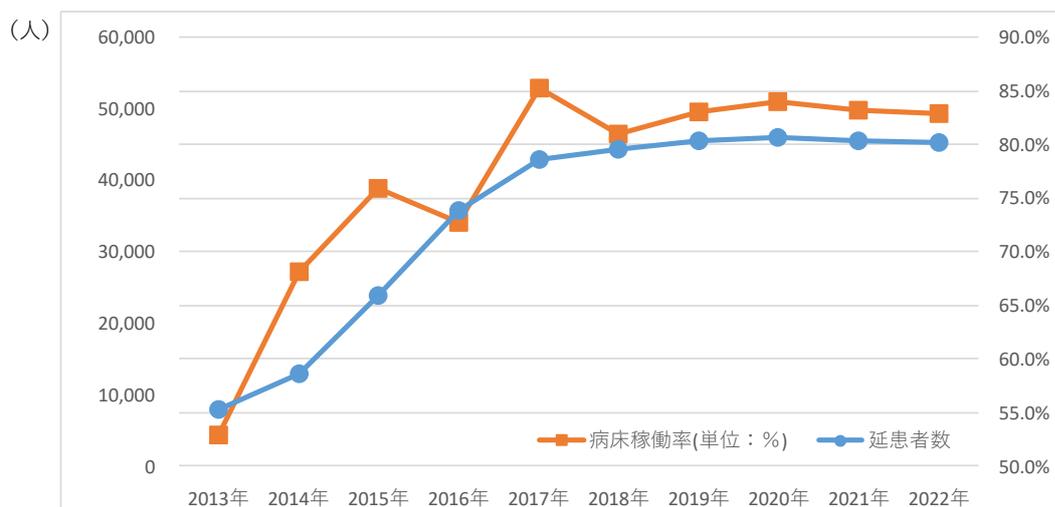
開院から10年の歩み（トピックス）

■ 2013年5月1日 袋井市立聖隷袋井市民病院 開院

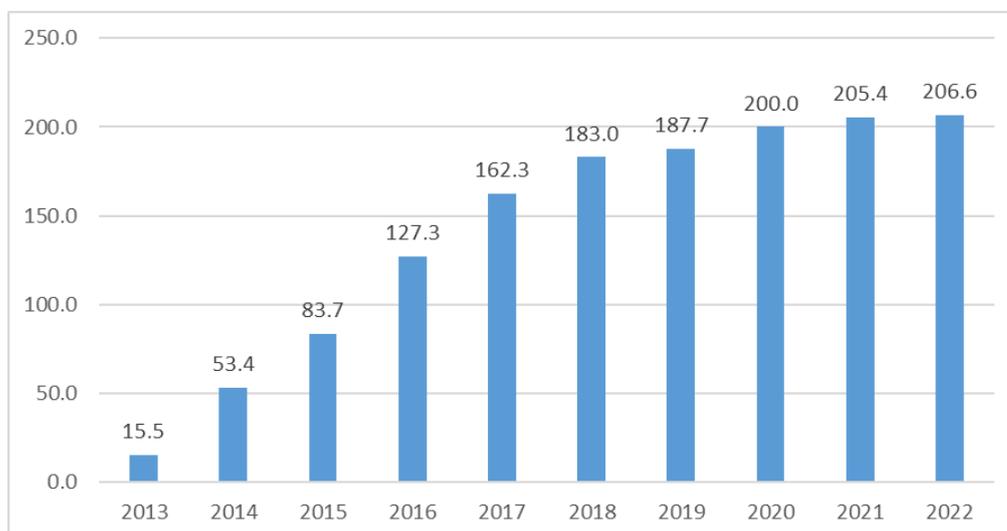


- ◆ 病院長 宮本恒彦、看護部長（当時は課長） 渥美直美、事務長 川端晃一郎
- ◆ 医師1名、看護師15名、准看護師1名、薬剤師2名、理学療法士2名、診療放射線技師2名、臨床検査技師2名、管理栄養士1名、事務職7名、計33名
- ◆ 一般病棟50床

■ 入院患者数と病床稼働率の推移



■ 職員数の推移（4月1日時点）

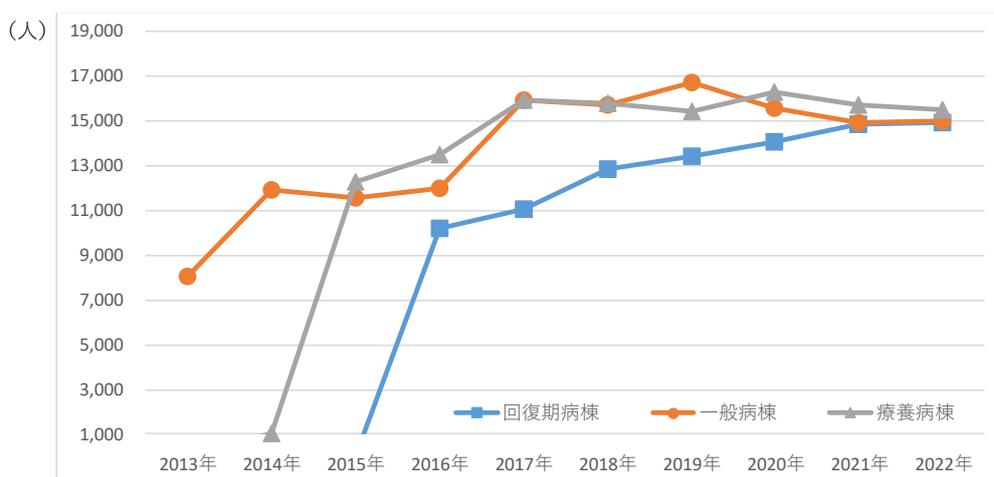


■ 2014年8月 西館増築工事完了



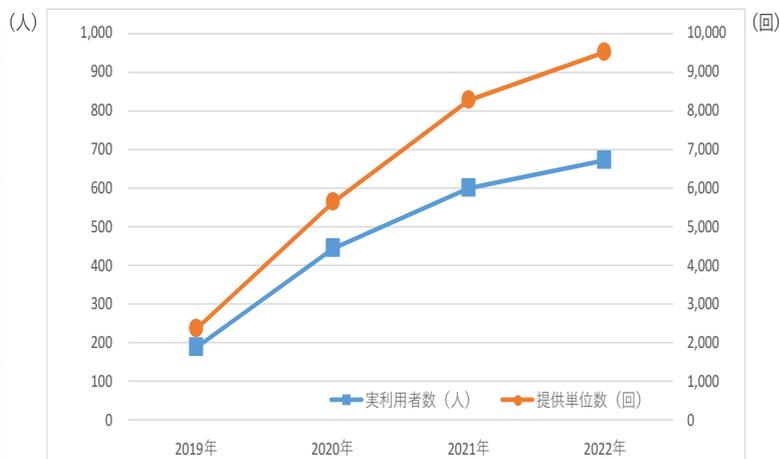
- ◆ 一般病棟 50床を西館に移転、9月療養病棟 36床（2016年6月、50床）を開設
- ◆ 2016年4月回復期リハビリテーション病棟 37床（2018年2月、50床）を開設
- ◆

■ 病棟別入院患者数の推移



■ 2019年4月4日 訪問リハビリテーション事業（介護保険）開始

■ 訪問リハビリテーション-実利用者数と提供単位数



■ 2019年10月27日 第一回市民公開講座『100歳まで食べよう！100歳まで歩こう！』



■ 2021年5月6日 リハビリテーション科訪問診療の開始



■ 2021年コロナワクチン接種（2020年より新型コロナウイルス感染蔓延）、発熱外来の実施



2021年4月～2023年3月までの地域医療者・住民接種

ファイザー社製ワクチン	30,809 回
モデルナ社製ワクチン	11,692 回
計	42,501 回

聖隷袋井市民病院

開設以来中東遠医療圏における後方支援病院としての役割を果たしつつ、この数年“退院後の生活の支援”にも注力し、地域包括ケアシステムの一翼を担うため発展し続けている。

2022 年度は袋井市からの指定管理第 2 期最終年度であり、開設 10 年目となる。地域住民へのコロナワクチン接種を継続しながら、『地域 NO.1』の回復期・慢性期医療を提供すべく進化を続ける。特にロボットを活用したリハビリテーションはこの地域で先駆的な取り組みとなり、本格的に訓練に応用していくことで身体機能向上や患者のモチベーション向上に寄与できると考えている。一般・回復期・療養病棟それぞれの特長を伸ばしていくこと、地域住民に認知されることで選ばれていくことのサイクルをまわしていきたい。コロナ禍では制限されることもあるが、これまで気づけなかったことを整えていくときでもある。医療の質の向上に注力し、期待される役割を果たし続けていきたい。

【施設理念】

『私たちは、患者と同じ視線を持ち、地域に信頼される病院を目指して歩み続けます』

【経営方針】

1. 地域ニーズに対応した安心・安全で質の高い医療サービスの提供
2. 急性期病院・地域診療所との懸け橋となる連携体制の構築
3. 在宅復帰や療養施設への入所を支援し、地域全体として切れ目のない医療の提供
4. 安定した経営基盤の確立
5. 働きがいのある職場づくりと人材育成

【事業・運営計画】

1. 安全で質の高い医療サービスの提供
 - (ア)多職種で取り組む質改善活動の推進
 - ① 職場や委員会等の質改善に向けた取り組みの可視化
 - ② 認知症患者の適切な医療評価や認知症ケアの向上
 - ③ 患者の利便性・満足度の向上
 - (イ)多職種による安全な医療サービスの提供
 - ① 事故予防策の検討、実践
 - ② 院内感染管理体制の強化
 - (ウ)地域における先駆的なリハビリテーション医療の充実
 - ① ロボットの活用を含めた特色あるリハビリテーションの提供
 - ② ボツリヌス療法や装具療法、嚥下入院の充実
 - ③ 高次脳機能障害への支援の充実

2. 地域包括ケアシステムの推進

(ア) 地域住民が自宅で最期まで自分らしく生活し続けるための支援体制づくり

- ① 退院後生活の支援（退院支援機能の向上、訪問診療の開始、訪問リハビリテーションの拡充、看護師による退院後生活のサポート）
- ② ACP（アドバンス・ケア・プランニング）の概念を基にした意思決定の支援

3. 人材の確保・育成および働きやすい職場環境づくり

(ア) 人材の確保と育成

- ① 採用困難職種（医師・看護補助者）の採用強化
- ② 障がい者の雇用促進
- ③ 専門性向上の支援

(イ) 働きやすい職場環境づくり

- ① 業務効率化の推進と労働環境の整備
- ② 両立支援制度の普及啓発、活用

4. 経営基盤の安定化

(ア) 病床稼働の安定化

- ① 入退院調整の強化
- ② 情報発信力の強化

(イ) 災害対策の強化

- ① BCP で課題とした項目の改善および対策

5. 地域における公益的な取り組み

(ア) 袋井市との協働と発展

- ① 地域における多職種協働（認知症初期集中支援活動、介護予防・健康増進活動、『こころのノート』普及）
- ② 地域に向けた啓発活動の実施

【数値指標】

サービス活動収益	1,667,150 千円	職員数	197 名
	患者数	単価	病床稼働率
外来	55 人／日	7,300 円	-
入院	131 人／日	28,300 円	87%
再掲（回復期）	43 人／日	36,700 円	86%
（一般）	42 人／日	26,200 円	84%
（療養）	46 人／日	22,300 円	92%

聖隷袋井市民病院

開設 10 年目となった 2022 年度は、長引くコロナ禍、さらには全国的な新型コロナウイルス感染拡大によって医療提供体制の見直しが行われ、後方支援を担う当院でも感染者の治療を行った。感染者や濃厚接触者の区域を分けた上で職員が感染対策を講じて治療やケアにあたることを経験するとともに、急性期病院の病床確保のため早期に転院を受け入れる態勢をとった。発熱外来および在宅療養者の経過観察、ワクチン接種を継続しつつ、地域医療を守るために臨機応変な対応が必要とされた、そんな一年であった。

“選ばれる病院『地域 No. 1』を目指す”をキーワードとした事業計画は、係長以上が策定から進捗管理まで関わった初めての取り組みであった。現場の課題を病院や地域の課題と捉え、職員自らの活動で改善していく風土を醸成すること、病院運営に参画している実感を得ることを目的として開始した。当初の目的に加え、職員の活動がみえる効果ももたらしてくれた。

10 月には病院長が交代し新たな組織体制となった。『地域 No. 1』の回復期・慢性期医療を提供するため、10 年かけて培ってきたノウハウを昇華させて、さらに質の高い医療を提供できるよう進化を続けていく。

【事業・運営計画】

選ばれる病院『地域 No. 1』を目指す

1. 安全で質の高い医療サービスの提供

継続的に質改善できる組織を目指して、職場や委員会で取り組みや実績の可視化を図ることを継続している。認知症ケアについては、新規プロジェクトを立ち上げ、患者への具体的支援に向けた情報収集方法の検討や知識の向上に取り組んでいる。患者動線はコロナ対応をきっかけとした見直しで、患者の利便性は上がったが、職員の負荷軽減が課題となっている。

医療安全管理では、患者誤認や薬剤関連のエラーを減らすべく取り組んだ。しかし、平行して安全文化醸成のためのヒヤリハット報告を推進したことで、報告件数が増える結果となったため、継続的に評価する必要がある。感染管理では、市中感染拡大の影響を受け集団感染が起きたが、迅速な対応により病棟内に抑えることができ、他の病棟で患者の受け入れを継続できる環境を保ち、地域への影響を最小限に抑えることができた。

リハビリテーション医療については、2021 年度導入したロボットを効果的に活用するために職員教育を進めた。高次脳機能障害患者への自動車運転再開支援については、中東遠地域で初めてとなる自動車学校との連携を 5 月に開始、4 名が実車評価を受けることができた。

2. 地域包括ケアシステムの推進

4 月からは、在宅主治医から紹介されたケースにリハビリテーション科としての専門的な訪問診療を開始した。また、退院支援機能向上や地域医療について学ぶため 9 月から県看護協会の訪問看護出向事業に参加、ルピナス袋井に 2 名が出向した。報告会・勉強会には出向先だけでなく地域の訪問看護ステーションや介護保険事業所なども参加し連携が深まった。ACP（アドバンス・ケア・プランニング）については、袋井市職員を含んだ新規プロジェクトを開始、職員への教育とともに「こころのノート」普及に向けた準備に取りかかっており、訪問リハビリテーション利用者にも活用してもらうことを始めている。

3. 人材の確保・育成および働きやすい職場環境づくり

採用困難職種である看護補助者採用強化のため、学校訪問、指定校推薦枠の増枠など取り組んだが新卒採用には至らなかった。回覧版の活用により採用数は満たしたが、雇用継続が課題である。整形外科については、聖隷浜松病院の協力により入院診療を継続することができた。経験豊富な専門医の診断によって手術に繋がるなど、患者にとっても選択肢が増える結果となった。

看護師1名が「栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連」の特定行為研修を修了したため、今後の活躍の場を構築していく。業務の効率化においては、病棟の申し送り時間を見直したことにより患者対応や情報収集等に活用できるようになり、事務職では属人化からの脱却を図り業務の平たん化を図った。また、腰痛の実態を把握するアンケートを職員に実施したため、2023年度に腰痛予防に繋げていく。

4. 経営基盤の安定化

入院患者数は予算を下回る結果であったが、集団感染発生の際にも患者を受け入れる環境を維持し、急性期病床確保のための転院を早期に受け入れことに注力した。上半期の低迷はあったが、下半期の稼働率向上は目覚ましく、半期だけ見れば過去最高の稼働率であったことは今後に繋がる結果である。発熱外来の増枠や年末年始の実施、ワクチン接種等、市の健康政策の柱として応えた結果、外来収益や予防活動収益が増加した。

介護保険事業である訪問リハビリテーションは、感染拡大による影響を受けたものの、新規利用者を獲得し続け、月平均792回（2021年度平均675回）と拡大した。BCP（事業継続計画）を策定して3年目となった。設備や備蓄は可能な限り改善したため、職員教育を考える訓練を継続している。年々、有事の際を想定した対応ができていくことに成長を感じている。

5. 地域における公益的な取り組み

市からの要請による医師の講演会講師派遣、政策である認知症初期集中支援チーム活動、市総合事業へのリハビリ専門職の派遣を継続している。住民がん検診に当院を利用してもらうことで、バリアフリーで密を避けた環境の提供、受診者数の増加、機器の有効活用も継続している。

【数値実績】

項目	予算	実績	対予算	対前年
外来患者数	60名	43名	71.6%	81.1%
外来単価	7,028円	8,921円	126.9%	112.6%
入院患者数	131名	125名	95.4%	100%
入院単価	28,324円	27,947円	98.6%	99.2%
病床稼働率	87.3%	83.3%	95.4%	100%
職員数	200名	188名	94.0%	101.0%

〈訪問リハビリテーション〉

項目	予算	実績	対予算	対前年
利用回数（月平均）	767件	792件	103.2%	115.2%
単価	3,339円	3,335円	99.8%	98.2%

病院概要（2022年4月1日現在）

- 開設者 袋井市長
- 病院名 袋井市立聖隷袋井市民病院
- 指定管理者 社会福祉法人聖隷福祉事業団
- 所在地 〒437-0061
静岡県袋井市久能 2515 番地の 1
TEL 0538-41-2777 FAX 0538-41-2813
- 開院日 2013 年 5 月 1 日
- 理事長 青木善治
- 病院長 宮本恒彦（～2022 年 9 月 30 日）
林泰広（2022 年 10 月 1 日～）
- 看護部長 春日三千代
- 事務長 梶間弘美
- 病床数 150 床
- 常勤職員 206.6 名
- 認定施設 保険医療機関
生活保護法指定医療機関
労災保険指定医療機関
結核予防法指定医療機関
被爆者一般疾病医療機関
指定自立支援医療機関（精神通院医療）
難病法に基づく指定医療機関
特定疾患治療研究事業
指定小児慢性特定疾病指定医療機関
- 標榜科目 耳鼻咽喉科、脳神経外科、整形外科、内科、リハビリテーション科
- 病棟構成

名称	病床数	入院料
3 階病棟	50	回復期リハビリテーション病棟入院料 3
4 階病棟	50	地域一般入院料 3
5 階病棟	50	療養病棟入院料 1
合計	150	

■ 施設基準

- －基本診療料 看護補助加算 1、看護配置加算、療養環境加算、療養病棟療養環境加算 1、
夜間看護加算（療養病棟入院基本料の注 12）、入退院支援加算 2、データ提出加算 1・3、
診療記録管理体制加算 2、感染対策向上加算 3、連携強化加算、認知症ケア加算 3、
- －特掲診療料 脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）、運動器リハビリテーション料（Ⅰ）、
呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）、廃用症候群リハビリテーション料（Ⅰ）、
薬剤管理指導料、検体検査管理加算（Ⅱ）、CT 撮影（16 列以上,64 列未満マルチスライス
CT）、MRI 撮影（1.5 テスラ以上 3 テスラ未満）
- －その他 選定療養、入院時食事療養（Ⅰ）

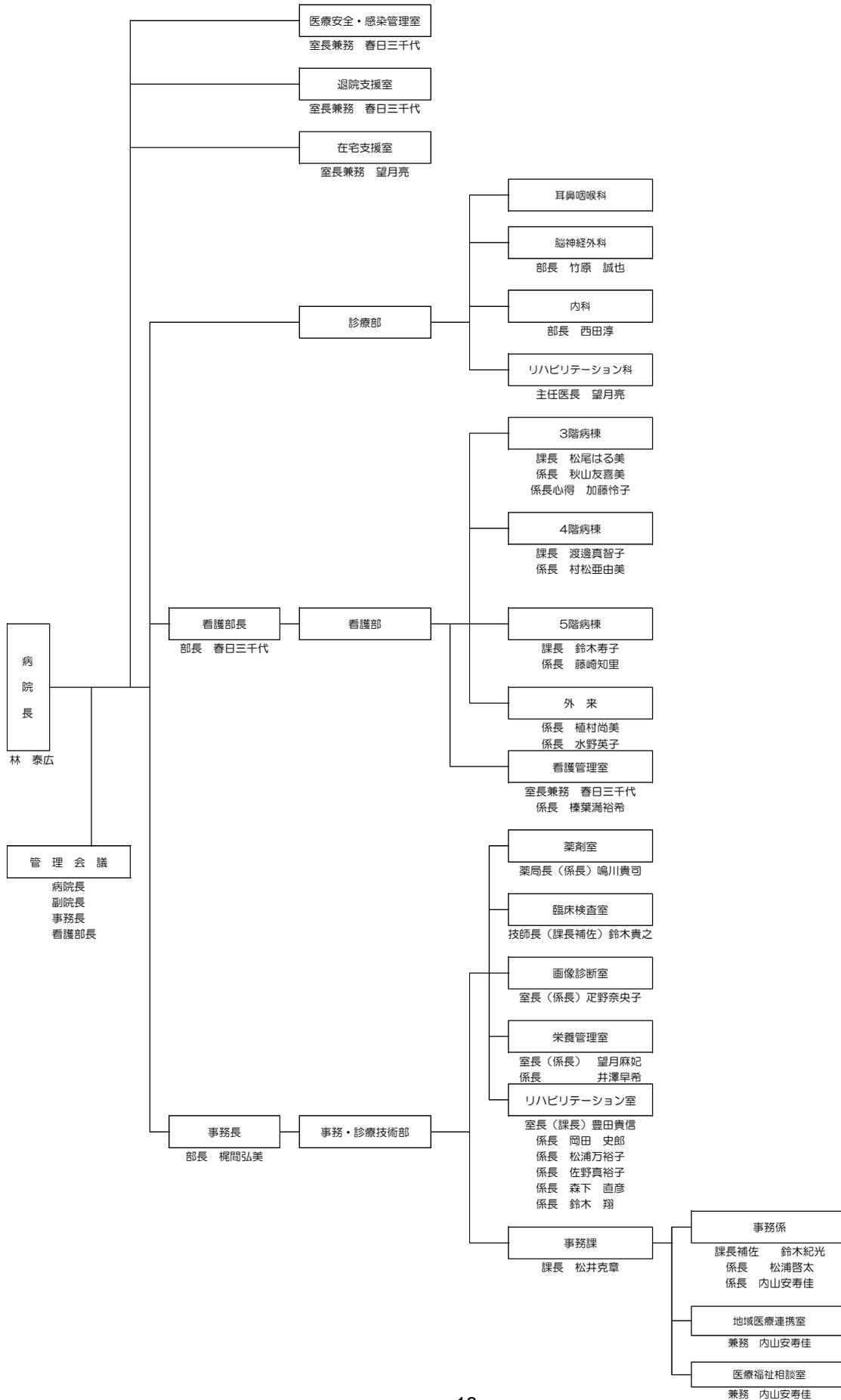
■ 職員状況 ※休職者含む

部門名	職能別内訳	区分		合計
		常勤	非常勤	
医 局	医 師	4	3.1	7.1
看 護 部	看 護 師	74	3.9	77.9
	准 看 護 師	5		5
	助 産 師	1		1
	介 護 福 祉 士	11	1.2	12.2
	看 護 助 手	14	1.4	15.4
	事 務 職	4		4
臨 床 検 査 室	臨 床 検 査 技 師	2		2
画 像 診 断 室	放 射 線 技 師	3		3
薬 剤 室	薬 剤 師	4		4
リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 室	理 学 療 法 士	26		26
	作 業 療 法 士	21		21
	言 語 聴 覚 士	5		5
	歯 科 衛 生 士	1		1
	事 務 職		0.9	0.9
栄 養 管 理 室	管 理 栄 養 士	2		2
事 務 課	事 務 員	17	2.1	19.1
合 計		194	12.6	206.6

■ 主な器械備品

機器名	数	メーカー名	機種名
1.5 テスラ MRI	1	フィリップス	Prodiva CX 1.5T
64 列マルチスライス CT	1	GE	Optima CT 660Pro Advance
FPD システム	3	コニカミノルタ	CS-7・FPD
X 線 TV システム	1	キャノン	ZEXIRA
C-アーム	1	フィリップス	BV Pulsera
骨密度測定装置	1	GE	PRODIGY
移動式 X 線撮影装置	1	島津製作所	MobileArt Evolution
超音波診断装置	2	GE ヘルスケアジャパン	LOGIQ S7、LOGIQ P6
心電計	3	日本光電	ECG-1550、ECG-1450、ECG-1450
脳波計	1	フクダ電子	COMET CM-E
生化学分析装置	1	キャノンメディカル	TBA c-8000
多項目自動血球分析装置	1	アボット	CELL-DYN Ruby
血液ガス分析装置	1	シスメックス	OPTI CCA-TS
全自動血液凝固測定装置	1	シスメックス	CA-1500
全自動尿分析装置	1	アークレイ	AX-4061
自動グリコヘモグロビン分析計	1	TOSHO	G11 HLC-723
肺機能検査装置	1	チェスト	チェストグラフ HI-105
聴力計	1	RION	AA-57
視力計	1	TOPCON	TOPCON SS-3
アンモニア測定装置	1	富士フィルム	NX10N
自動赤血球沈降速度測定機	1	テクノメディカ	ESR-6000
免疫分析装置	1	TOSHO	AIA-360

聖隷袋井市民病院 組織図



2022年度下期 聖隷袋井市民病院 会議・各種委員会名簿

管理会議 職場長会等 ◎委員長、●副委員長、▲事務局 ■陪席

区分	会議名	開催日時	開催頻度	診療部	看護部	医療技術	事務	外部委員
管理会議		第3木曜日15:00～ 第2木曜日(予備)	毎月	◎林泰広 ■竹原誠也 ■西田淳 ■望月亮 ■宮本恒彦	春日三千代 ■渡邊真智子 ■鈴木寿子 ■松尾はる美	■豊田貴信 ■鳴川貴司 ■鈴木貴之 ■疋野奈央子 ■望月麻紀	梶間弘美 ▲松井 克章 ■鈴木紀光 ■松浦啓太	
職場 代表者会議		第3木曜日15:00～	毎月	◎林泰広 竹原誠也 西田淳 望月亮 宮本恒彦	春日三千代 渡邊真智子 ■鈴木寿子 松尾はる美	豊田貴信 鳴川貴司 鈴木貴之 疋野奈央子 望月麻紀	梶間弘美 ▲松井 克章	

委員会・会議

I 安全 ◎委員長、●副委員長、▲事務局 ■陪席

委員会名	開催日時	開催頻度	診療部	看護部	医療技術	事務	外部委員
○ 医療安全管理委員会 (輸血療法委員会)	第3木曜日15:00～	毎月	◎林泰広	●春日三千代 (医療安全管理者) ■渡邊真智子 ■鈴木寿子 ■松尾はる美	豊田貴信 鳴川貴司 鈴木貴之 望月麻紀 ▲疋野奈央子 (医療機器安全管理責任者) (医療放射線安全管理責任者)	梶間弘美 内山安寿佳	
○ 医療事故調査委員会		医療安全管理者の招集時	◎林泰広	●春日三千代 ■渡邊真智子 ■鈴木寿子 ■松尾はる美	▲疋野奈央子	●梶間弘美 松井克章	
○ 医療ガス安全管理委員会	第3木曜日15:00～	年1～2回	◎林泰広	春日三千代	▲疋野奈央子 鳴川貴司	●梶間弘美 松浦啓太 ■袋井市の設備担当者	
○ 防災委員会	第3木曜日15:00～	毎月	◎林泰広(管理権限者)	渡邊真智子	▲豊田貴信 鳴川貴司 鈴木貴之 疋野奈央子 望月麻紀	●梶間弘美(防火管理者) 松浦啓太 溝口眞琴	
安全運転委員会		年1～2回		松尾はる美	●疋野奈央子	梶間弘美 ◎松井 克章 (安全運転管理者) ▲金原真有美	

II 質の保障

◎委員長、●副委員長、▲事務局 ■陪席

委員会名	開催日時	開催頻度	診療部	看護部	医療技術	事務	外部委員
○ 診療記録管理委員会 (情報システム委員会)	第3木曜日15:00～	年3回	◎林泰広	春日三千代 ■渡邊真智子 ■鈴木寿子 ■松尾はる美	豊田貴信 鳴川貴司 鈴木貴之 疋野奈央子 望月麻紀	梶間弘美 ▲増澤友紀 鈴木紀光	
○ コーディング委員会		年2回	◎林泰広	春日三千代	鳴川貴司	▲増澤友紀	
個人情報保護委員会	第3木曜日15:00～	年1～2回	◎林泰広	春日三千代 ■渡邊真智子 ■鈴木寿子 ■松尾はる美	豊田貴信 鳴川貴司 鈴木貴之 疋野奈央子 望月麻紀	梶間弘美 福島順子 ▲松浦啓太	
○ 役割分担推進委員会	第3木曜日16:00～	年3回	◎林泰広	●春日三千代 渡邊真智子	豊田貴信 鳴川貴司 鈴木貴之 疋野奈央子 望月麻紀	梶間弘美 ▲鈴木紀光	
クリニカルバス委員会		年数回	◎望月亮	●松尾はる美	松浦万裕子 鳴川貴司 鈴木貴之 疋野奈央子 望月麻紀	増澤友紀 ▲福島順子	
倫理委員会	第3月曜日16:00～	年4回	◎西田淳 宮本恒彦	春日三千代 松尾はる美	豊田貴信	梶間弘美 ▲鈴木紀光	乗松里好 (袋井市職員)

III 健康

◎委員長、●副委員長、▲事務局 ■陪席

委員会名	開催日時	開催頻度	診療部	看護部	医療技術	事務	外部委員
○ 院内感染対策委員会	第3木曜日 15:00～	毎月	林泰広 竹原誠也 ◎西田淳 望月亮	春日三千代 渡邊真智子 ■鈴木寿子 松尾はる美	豊田貴信 鳴川貴司 ▲鈴木貴之 疋野奈央子 望月麻紀	梶間弘美 松井 克章	
○ 衛生委員会	第3木曜日 15:00～	毎月	◎林泰広 西尾信一郎 (産業医)	●春日三千代	豊田貴信 鳴川貴司(衛生管理者)	梶間弘美 ▲松井 克章 金原真有美	

IV 治療等

◎委員長、●副委員長、▲事務局 ■陪席

委員会名	開催日時	開催頻度	診療部	看護部	医療技術	事務	外部委員
○ 薬事委員会	第3木曜日 15:00～	毎月	◎林泰広 竹原誠也 西田淳 望月亮	●渡邊真智子	鳴川貴司 (医薬品安全管理責任者)	増澤友紀	
○ 臨床検査適正委員会	第3木曜日 15:00～	毎月	◎林泰広 西田淳	●松尾はる美	▲鈴木貴之	松井克章	
栄養委員会	第3木曜日 14:45～	毎月	◎竹原 誠也	●渡邊真智子 ■鈴木寿子 ●松尾はる美	▲望月麻紀 浅野全子 ■委託責任者 (栄養士)	鈴木悠里	
○ 褥瘡対策委員会	第3木曜日 15:00～	毎月	◎林泰広 池羽吉菜	●渡邊真智子 ▲鈴木寿子 松尾はる美	鳴川貴司 鈴木翔 望月麻紀 鈴木貴之		

V 広報

◎委員長、●副委員長、▲事務局 ■陪席

委員会名	開催日時	開催頻度	診療部	看護部	医療技術	事務	外部委員
広報委員会		年4回		鈴木寿子	◎鈴木貴之 ▲岡田史郎 ○江塚和可子 夏目陽香 ○鈴木美穂子	梶間弘美 古澤文美 ●竹内沙弥果	
利用者満足度向上委員会	第2木曜日 16:30～	年4回		植村尚美 平川圭祐 角替多加恵 若杉竜彦	長田圭太郎 疋野奈央子	◎松井克章 ▲寺田歩実果	

VI 運営会議

◎委員長、●副委員長、▲事務局 ■陪席

会議名等	開催日時	開催頻度	診療部	看護部	医療技術	事務	外部委員
リハビリ運営会議	第3木曜日委員会終了後 (4月、7月、10月、1月)	年4回	◎望月亮、竹原誠也	渡邊真智子 ■鈴木寿子 松尾はる美	●豊田貴信 岡田史郎 森下直彦 佐野真裕子 ▲鈴木翔	村井里美	
外来運営会議	第3木曜日委員会終了後	年3回	林泰広 西田淳	◎植村尚美 徳増文佳 春日三千代	後藤洗貴 ▲阿部篤子 江塚和可子 ●鳴川貴司	増田俊介、花嶋瑛里	
在宅支援室会議	第3木曜日 16:00～	年4回	◎望月亮	春日三千代、松尾はる美	豊田貴信 佐野真裕子	梶間弘美 ▲平岩佳奈美 内山安寿佳 増澤友紀 溝口眞琴 松井克章	
研修運営会議		年1～2回	西田淳	◎春日三千代 渡邊真智子 ■鈴木寿子 松尾はる美	岡田史郎 鳴川貴司 ●鈴木貴之	▲松井 克章	

◎法的の必要 ○施設基準 (診療報酬ほか)

2022年11月1日付で上記の通り委嘱します。病院長 林 泰広

【医療安全管理委員会（輸血療法含む）】

開催実績 12回

審議・検討内容

- ・IA集計と事例報告
- ・ハイリスク事例検討と対策立案
- ・MRMの内容確認、改訂
- ・輸血療法の実績報告

目標

- ・IAレポート報告の推進と、事故予防策の検討、実施
- ・患者誤認（Lv.0以上）0件
- ・薬剤関連IA（スタッフ要因）20%減

活動報告

- ・IAレポート提出促進 「IAレポートの書き方」医療安全ニュース掲載
- ・薬剤関連IAを中心とした事例共有
- ・患者誤認をテーマとした講習会実施（第2回医療安全講習会）
- ・MRM改訂（委員会規約見直し・身体拘束について・新型コロナワクチン接種の運用・与薬・アナフィラキシー発生時の対応・患者の離院離棟予防策と発生時の対応）
- ・各種講習会実施（医療安全講習会2回、BLS講習会、不審者対応講習会、リスクマネージャー講習）

【医療ガス安全管理委員会】

開催実績 1回

審議・検討内容

- ・医療ガス設備、点検の状況確認
- ・医療ガス 安全使用のための職員教育

目標

- ・医療ガスの安定供給と職員が安全に使用できる環境整備を行う

活動報告

- ・ガス供給設備巡視（委員、監視盤、千代田）
- ・医療ガス使用時の注意点配信

【防災委員会】

開催実績 8回

審議・検討内容

- ・袋井市との協働による消防計画に関する事項
- ・袋井市が実施する消防・避難設備点検結果および維持管理に係る事項
- ・消防計画に基づく訓練の実施
- ・防災マニュアルおよびBCP（事業継続計画）に関する事項

る事項

- ・安否確認システムに関する事項
- ・その他防災・減災に関する事項

方針

訓練や職場防災活動を通して、職員自らが考えて行動できる防災体制を構築する

目標

- ①各種マニュアルの見直しと整備
- ②CSCAの概念を基盤とした防災訓練を通して、発災後72時間以内の行動計画を立案する

活動報告

- ・非常連絡網訓練（ANPIC 使用：返信率 94.7%）
2022.6.17
- ・職場防災ラウンド（委員5名） 2022.6.30
- ・消火器、消火栓、搬送訓練
第1回 2022.7.14（12名）第2回 2023.2.24（10名）
- ・袋井消防への相談訪問 2022.11.16
- ・火災訓練 2022.12.8
- ・BCP改定、マニュアル整備と差し替え（非常連絡網、防火対象物自衛消防隊編成表、地震防災マニュアル内の被害状況報告書を変更）
- ・防災備品購入（LEDライト60個、ヘルメット2個）
- ・令和4年度静岡県総合防災訓練（本部運営訓練）に伴うEMIS入力訓練への参加 2022.8
- ・令和4年度事業継続計画（BCP）策定研修への参加（副委員長、事務局） 2022.12.16

【安全運転委員会】

開催実績 1回（デスクネッツ開催）

審議・検討内容

- ・車両届の年度更新に関する報告
- ・アルコール検知器使用義務化についての対応

目標

- ・車両の管理及び安全運転の振返り、交通事故の防止
- ・新入職員導入研修での安全運転講習

活動報告

- ・業務用車両運転者申請WEB化
- ・業務用車両運転時のアルコールチェックの徹底
- ・車両届の年度更新

【診療記録管理委員会（情報システム含む）】

開催実績 4回

審議・検討内容

- ・診療録管理上および診療録に関する事項の検討及び、情報セキュリティ向上への取り組みや、電子カルテ

運用の検討を目的とする

目標

- ・診療録の管理運営に関する課題の検討
- ・電子カルテ運用に関する課題の検討
- ・情報セキュリティ等の職員教育、啓蒙活動
- ・年3回以上の委員会開催

活動報告

- ・診療録開示に関する院内規定の変更検討
- ・電子カルテ文書の検討
- ・診療録の取り扱いに関する個人情報保護の勉強会について
- ・情報セキュリティに関するシステム連絡の配信（6件）

【コーディング委員会】

開催実績 2回（うち デスクネット開催2回）

審議・検討内容

- ・適切なコーディングを行う体制を確保する

目標

- ・委員会開催年2回以上

活動報告

- ・入院病名 ICD-10 の報告
- ・ICD-10 表記されたドット9を適切な病名へのコーディングへの実施の報告

【個人情報保護委員会】

開催実績 2回

審議・検討内容

- ・「聖隷袋井市民病院 個人情報保護基本規程」に基づき実際の運用と手順の検討・審議をする

目標

- ・個人情報保護に関する病院の方針決定
- ・個人情報保護に関する定期的な勉強会の実施

活動報告

- ・個人情報研修会の開催 テーマ「プライバシー保護と個人情報保護」
- ・当院の退院カンファレンスに外部の医師・介護サービス事業者等が参加し意見や助言を求める場合の事前同意について検討

【役割分担推進委員会】

開催実績 2回

審議・検討内容

- ・医師、看護師等の専門職種が専門性を必要とする業務に専念することにより、効率的な業務運営がなさ

れるよう、適切な人員配置の在り方や、適切な役割分担をすることを目的とする。

目標

- ・看護職員の煩雑な業務を再考し負担軽減を推進する
- ・看護職員の負担の軽減及び処遇の改善に資する計画の策定、評価

活動報告

- ・看護職員の負担の軽減及び処遇の改善に資する計画の策定、評価
- ・看護職員の行っている事務的な業務を他職種が担う体制（タスク・シフト）を検討
- ・介護中の看護職員に対する配慮（夜勤負担等の軽減）を検討
- ・妊娠・子育て中の看護職員に対する配慮（夜勤負担等の軽減）を検討
- ・院内保育所の継続及び新たな流行性感染症が発生した場合の院内学童の体制の整備

【クリニカルパス委員会】

開催実績 5回（+小部会6回）

審議・検討内容

- ・クリニカルパス導入の推進
- ・クリニカルパスの評価と管理（バリエーション集計及びデータクリーニング）
- ・クリニカルパスの周知及び指導

目標

- ・大腿骨骨折院内パス Ver3の内容・運用の周知および集計・分析

活動報告

- ・大腿骨骨折院内パス退院者のバリエーション集計及びデータクリーニング
- ・大腿骨骨折院内パス Ver3 中間データ集計及び分析
- ・大腿骨骨折院内パス Ver3 の勉強会（動画配信）の実施
- ・地域連携パス及び院内パスの利用率集計

【倫理委員会】

開催実績 4回

審議・検討内容

- ・聖隷袋井市民病院の様々な活動における倫理的な課題及び諸問題等に対して、その倫理性を審議することを目的とする

目標

- ・倫理的課題に関する病院方針の決定
- ・臨床の場面で生じる個別具体的な倫理的課題の検討
- ・臨床研究における倫理的配慮の審議

- ・倫理コンサルテーションの実施

活動報告

- ・臨床研究審査の実施（3件）
- ・成年年齢の引き下げについて改正法への対応を審議
- ・臨床倫理研修会の開催

【院内感染対策委員会】

開催実績 15回（うち、臨時3回）

審議・検討内容

- ・院内における微生物の感染を積極的に防止
- ・院内各部署と連携し院内感染予防に取り組む

目標

- ・細菌検査状況報告
- ・感染対策ラウンド報告
- ・カテーテル使用者情報報告
- ・特定抗菌薬使用状況報告、不適切な使用0
- ・研修会開催
- ・手洗いチェック実施
- ・マニュアル改訂

活動報告

- ・細菌検査状況報告を毎月実施
- ・感染対策ラウンド報告を毎月実施
- ・カテーテル使用者情報報告を毎月実施
- ・特定抗菌薬使用状況報告を毎月実施、不適切使用0
- ・アンチバイオグラムの共有 11月
- ・研修会開催
- ・新型コロナウイルス感染症への対応について、職員注意喚起文書の検討、配信 11月
- ・新型コロナウイルスワクチン集団接種の運営に関する検討
- ・インフルエンザワクチン接種の運用検討
- ・マニュアル改訂
 - 規約内、組織図の変更 6月
 - 指針内、ICT業務に関する記載の変更 6月
 - 院内感染対策に関する取組み事項の修正 6月
 - 職業感染予防対策マニュアルのうち感染予防対策に関する事項を統合 10月
- ・新型コロナウイルス感染症クラスター情報共有
 - 7月・8月・10月・12月・2023年1月
- ・感染対策連携共通プラットフォーム J-SIPHE への参加報告 2023年2月

【衛生委員会】

開催実績 12回

審議・検討内容

- ・職員の健康障害の防止に関すること
- ・職員の健康の保持増進に関すること
- ・長時間にわたる労働による職員の健康障害の防止に関すること
- ・精神的健康の保持増進に関すること

目標

- ・定期健診の受診率 100%
- ・ストレスチェックの受検率 100%
- ・腰痛検診の実施

活動報告

- ・長時間勤務者の委員会報告
- ・産業医の院内巡視活動
- ・衛生管理者の職場巡視活動
- ・定期健康診断の実施、労働基準監督署への届出
- ・腰痛検診の実施、労働基準監督署への届出
- ・ストレスチェックの実施、労働基準監督署への届出
- ・放射線業務従事者被爆線量のチェック

【薬事委員会】

開催実績 12回

審議・検討内容

- ・新規採用薬の検討：正式採用 15 剤の承認
- ・中止薬剤の検討：13 剤の削除
- ・副作用報告書の内容よりオーダー規制の報告、検討

目標

- ・採用医薬品の管理を徹底
- ・DI ニュースを毎月 1 回発行し、医薬品・医療機器の最新情報を収集、提供を行う
- ・副作用報告内容から、被疑薬の再投与防止に努める

活動報告

- ・2022 年度 5 薬剤を後発品へ切り替え、約 47 万円の費用削減となった。
- ・副作用症例の検討、オーダー規制や副作用カードの発行
- ・供給不安定薬について薬剤の切り替え等検討

【臨床検査適正委員会】

開催実績 8回（うち デスクネッツ開催 8回）

審議・検討内容

- ・臨床検査室の適正、円滑な運営に関する審議、検討
- ・臨床検査の質の向上に関する審議、検討

目標

- ・精度保証の向上
- ・診療支援の向上

活動報告

- ・電子カルテ検査依頼画面の改善
新規検査依頼ウインドの作成 10月
委託検査のうち中止項目を削除 6月
- ・精度管理調査の報告
静岡県臨床検査精度管理調査 5月受審
日臨技臨床検査精度管理調査 6月受審
医師会臨床検査精度管理調査 9月受審
- ・検査装置保守状況の報告
生化学分析装置保守報告 6月・10月
血液分析装置保守報告 2023年3月
肺機能検査装置修理報告 2023年2月
- ・新規検査装置の検討報告
凝固分析装置更新のための検討報告 12月
凝固分析装置稼働 2023年2月

【栄養委員会】

開催実績 6回

審議・検討内容

- ・入院時食事療養の改善・向上を図る
- ・濃厚流動食・検査食・栄養補助食品の導入と削除検討
- ・各部署の要望事項のとりまとめ、検討

目標

- ・地産地消献立 or 新企画：3回実施、郷土料理：3回実施
- ・日清企画『みんなの日曜日』4回実施
- ・職員食アンケート：味付け丁度良い85%以上、患者嗜好調査：7.6点/10点満点以上
- ・事業団主催料理対決：入賞目標
- ・栄養部門衛生監視：○が94%以上
- ・エンシュア粘度別調整マニュアル作成
- ・入院相談シート/看護サマリに食形態コード掲載、近隣施設での食事形態比較表の評価
- ・日本人の食事摂取基準に準じ、塩分8.1g/日→7.0g/日に調整
- ・災害時フローチャートの作成、炊き出し訓練：1回/年実施

活動報告

- ・地産地消献立：2回、郷土料理：2回（山形県・福岡県）実施
- ・日清企画『みんなの日曜日』：4回実施、日清50周年企画『お取り寄せフルーツ/スイーツ』：10回実施
- ・職員食アンケート：味付け丁度良い91.4%、患者嗜好調査：7.2点/10点満点
- ・施設対抗料理対決：6位/16施設
- ・栄養部門衛生監視：○が90%
- ・各種濃厚流動食 粘度別調整マニュアル作成、各種マニュアル改訂（濃厚流動食、栄養補助食品一覧他）
- ・栄養アセスメント評価 運用基準の変更
- ・食形態に係る各種取り組みに関するアンケート実施：42名回答（回答率36.2%）
- ・日本人の食事摂取基準に準じ、塩分7.2g/日に調整
- ・災害時フローチャートの作成、炊き出し訓練は次年度計画
- ・エンシュアリキッド（バニラ味）販売中止による次期採用薬の検討（薬事委員会と協働）

【褥瘡対策委員会】

開催実績 12回（うち デスクネッツ開催 2回）

審議・検討内容

- ・院内の褥瘡件数の把握
- ・院内のスキントア発生状況の分析
- ・院内に向けて褥瘡対策の啓発の実施

目標

- ・院内発生の褥瘡件数とスキントアが昨年度より減少する

活動報告

- ・院内褥瘡発生17件/年（前年22件）、持ち込み褥瘡109件（前年94件）
- ・褥瘡発生率2.8%
- ・褥瘡回診59回/年 延べ患者数517名
- ・スキントア件数207件（前年115件）
- ・新人職員対象勉強会開催
- ・褥瘡ケア推進ナースの設置

【広報委員会】

開催実績 4回（うち デスクネッツ開催 1回）

審議・検討内容

- ・院外広報誌『コスモスだより』作成発行管理
- ・バックナンバーの保管管理

目標

- ・『コスモスだより』年4回（4,7,10,1月）発行

活動報告

- ・『コスモスだより』の作成、7000枚印刷、約180施設への発送、袋井市内回覧板にて配布
- ・バックナンバー管理方法の策定（PDFをHPへアップロード、棚の整理、過剰分の廃棄）
- ・委員の役割分担を明確にし、記事の校正や記述・写真撮影や写真使用方法等の広報誌作成能力を養っていく仕組み作りの検討

【利用者満足度向上委員会】

開催実績 2回

審議・検討内容

- ・接遇に関する事項の審議
- ・利用者満足度調査に関する事項の審議

目標

- ・接遇研修 受講率 80%以上
- ・患者満足度調査の実施

活動報告

- ・接遇研修開催：81%
- ・患者満足度調査の実施：外来：147枚（回収率 100%）
- 入院：12枚（回収率 9%）
- ・クリスマスツリー飾りつけ

【リハビリ運営会議】

開催実績 2回

審議・検討内容

- ・リハビリ運用に関する情報共有・検討

目標

- ・リハビリ関連職種（医師、看護、事務、リハビリ）の運用を統一できる

活動報告

- ・摂食機能療法の実施計画書の変更と言語療法の処方に関する検討
- ・自動車学校評価開始の共有
- ・家屋情報用紙の一部改訂の共有
- ・装具処方の流れの変更の共有

【外来運営会議】

開催実績 4回（うち デスクネット開催 1回）

審議・検討内容

- ・外来運営に関する検討

目標

- ・外来運営に対する運用の効率化・コメディカル間の情報共有

活動報告

- ・整形外科医の当院来院部と外来診療の実施に関しての検討
- ・耳鼻咽喉科外来設置運営に関する打ち合わせ・必要事項の決定
- ・外来フロア内での患者誤認防止策についての検討
- ・電子カルテ登録運用の統一に関する検討

【在宅支援室会議】

開催実績 5回

審議・検討内容

『地域住民が、自宅以最期まで（看取りまで）自分らしく生活し続けるための（QOL向上、健康寿命延長）支援をすること、またそのための人材育成および院外連携先との“チーム感”を醸成すること』を目的に掲げ、そのために必要なことを検討する。

目標

- ・病院から『住まい』へと生活の場を変える『移行期』を経験する／した患者を支援する
- ・地域包括ケアシステムの『HUB』

活動報告

・在宅支援室の目的を『地域住民が、自宅以最期まで（看取りまで）自分らしく生活し続けるための（QOL向上、健康寿命延長）支援をすること、またそのための人材育成および院外連携先との“チーム感”を醸成すること』と掲げ、2022年度は上記目標を目指し、訪問診療・看護訪問・連携支援・訪問リハ・人材育成の5グループで活動した。
※活動詳細は、センター機能の項に記載。

【研修運営会議】

開催実績 1回（うち デスクネット開催 1回）

審議・検討内容

- ・新入職員導入研修プログラム（案）について
- ・新入職員導入研修の準備について

目標

- ・新入職員導入研修の準備・開催
- ・聖隷福祉事業団階層別研修の開催（取り纏め）

活動報告

- ・研修プログラムの立案
- ・講演担当職員、袋井警察との講演調整
- ・資料の準備、会場設営
- ・新入職員導入研修の司会・進行

多職種協働プロジェクト（PJ）活動報告

PJ名	リーダー	メンバー	備考
認知症ケアPJ	秋山友喜美 (看護師)	・看護師：鈴木寛子、藤崎知里、松尾遼太 ・介護福祉士：平川圭祐 ・療法士：鈴木明日香 ・社会福祉士：吉澤文美 ・薬剤師：樋川昭 ・袋井市保健師：香川紋己、内山ルデヤ	1時間 /回/月
自分らしく生きるを支援するPJ	鈴木翔 (療法士)	・看護師：荒木麻美、村松亜由美、片岡祐希、植村尚美 ・社会福祉士：内山安寿佳 ・療法士：高井悠加 ・袋井市保健師：香川紋己	1時間 /回/月
始めよう働き方改革、新しい一歩を踏み出そうPJ	佐野真裕子 (療法士)	・看護師：加藤尚世、村松真由香、鈴木麻美、徳増文佳 ・療法士：則次祐美、中山祥子、後藤洸貴 ・事務：鈴木紀光 ・薬剤師：鳴川貴司 ・管理栄養士：望月麻妃 ・放射線技師：疋野奈央子	1時間 /回/月
無駄と不足をなくそうPJ	松浦万裕子 (療法士)	・看護師：松尾はる美、渡邊真智子、鈴木寿子 ・事務：松浦啓太、梶間弘美	2回開催 (3月)

【認知症ケアPJ】

開催実績 7回

目標

- ①入院生活への適応を促進するために認知機能障害を踏まえ生活リズムを整える
 - ・生活に関する情報収集用紙を作成
 - ・院内デイケア立ち上げの検討
- ②せん妄やBPSD発症を予防し、発症時は早期改善をはかる
 - ・認知症に関する知識のベースアップをはかる

活動報告

- ①認知症ケアでは、患者自身が語れない生活史などの情報がケアのヒントになることが多い。各病棟で活用していたものを統合し、院内共通の情報収集用紙を作成した。現在、用紙の微修正と運用案をまとめており、今年度中に完成予定。デイケアについては今年度の立ち上げは困難と判断し、来年度企画運営を計画する。
- ②e-ラーニングを活用した認知症に関する学習機会の推進をはかった。看護部で必須研修としている項目を、事務部・リハビリテーション部へ広げ、個人学習を働きかけた。来年度は計画的にアナウンスし学習機会を増やす。

【自分らしく生きるを支援するPJ (ACP)】

開催実績 8回

目標

- 5月まで:PJメンバーの選定
9月までに今年度の目標値を作成する
- ①院内勉強会の開催 2回/年以上
 - ②運用マニュアルの作成、運用が開始できる
 - ③こころのノートを実証例に使用する 1例/年以上

活動報告

- ・2022年度より発足。
- ・院内勉強会チーム、運用検討チーム、症例検討チームに分かれ活動を開始。
- ・院内勉強会チーム
ACPの概要、必要なスキル、こころのノートの概要、使用体験の勉強会を開催。
- ・運用検討チーム
院外からこころのノートを開始する場合のマニュアルを作成。運用開始。
- ・症例検討チーム
訪問リハビリを含め4名に実施。2023年度に症例報告実施予定。
 - ①計4回開催：達成
 - ②運用開始：達成
 - ③4名に実施：達成

【働き方改革 PJ】

開催実績：5回

目標

- ①時間外労働の低減につながる業務改善：各職場1つ以上
- ②腰痛軽減の対策：一つ以上導入開始（全職員アンケートによる評価）

活動報告

・2022年度より発足

- ①各病棟、部署ごとに目標設定し活動開始
時間外労働：1部署あたり0.3時間/月減少（前年比-2%）
回復期：申し送り時間短縮、患者対応の時間増加
一般：申し送り時間短縮、情報収集の時間増加
療養：日勤受け持ちの方法を変更、結果は次年度検証。
事務課：各係で業務の平坦化
リハビリ：超勤事前申請用紙の簡易化
1月業務アンケートの実施
- ②上半期：他施設への情報収集、聖隷浜松病院整形外科医監修のもと職員アンケート作成
12月全職員を対象にアンケート調査実施

- ②車椅子の管理表の作成について

今まで、各病棟での管理方法がバラバラであったため、袋井共有フォルダ内の管理表を作成して、各病棟への周知を行った。

そちらも5月8日より開始した。

- ③各スタッフへの周知について

管理表の作成、車椅子のナンバリングにより、各スタッフが確認しやすい環境作りを行った。

結果

- ①車椅子・歩行器に新たにナンバリングを実施
- ②車椅子・歩行器の管理方法を袋井共有フォルダの管理表を作成
- ③各スタッフへ、PJスタッフから周知

【無駄と不足をなくそう PJ】

開催実績：1回

目標

- ①車椅子と歩行器が必要な職場に必要な数ある
- ②状況に合わせて使用できる在庫がある
- ③患者さんに適切な車いすと歩行器が提供できる

活動報告

- ・2022年度3月活動開始。
- ・中央倉庫や各病棟に煩雑に置かれている車椅子・歩行器を整理し、必要な車椅子・歩行器を患者さんにすぐに提供できるように活動を行った。

- ①車椅子のナンバリングについて

まず、当院では車椅子・歩行器に関しての管理方法が統一されたものが存在していなかった。そのため、車椅子・歩行器のナンバリングを行うことを会議で話し合い、了承を得た。

その後、各病棟のスタッフで所在している車椅子の台数を把握し、必要数を振り分けた。その後、新たに車椅子・歩行器のナンバリングを行い、病院全体の管理番号を統一した。

その後、5月8日より実施を開始した。

■ NR 責任者会 1回/2か月 1時間

看護部	春日三千代、松尾はる美、渡邊真智子、鈴木寿子
リハビリテーション室	豊田貴信、佐野真裕子、松浦万裕子、森下直彦、岡田史郎、鈴木翔

■ NR 協働委員会

	委員長	メンバー	備考
NR 感染	鈴木寿子	・看護師：平野文、村山詩織、エバンヘリスタマクスロイパネル 植村尚美 ・療法士：橋内ひとみ、鈴木翔、長田圭太郎	1時間 /回/月
NR 医療安全	松尾はる美	・看護師：水野英子、加藤怜子、榛葉満裕希、佐藤千香、三重順子 ・療法士：則次祐美、岡田史郎 ・薬剤師：鳴川貴司	1時間 /回/月
NR 教育	豊田貴信	・看護師：渡辺真智子、中崎彰子、戸塚なつ子、 ・介護福祉士：鈴木美帆子 ・療法士：森下直彦、佐野真裕子	1時間 /回/月

【NR 管理者会】

開催実績 7回

審議・検討内容

- ・NR 協働の組織体制を構築（目的・組織図）
- ・NR 委員会の設立（感染、医療安全、教育）
- ・各委員会、病棟の目標の進捗状況を確認
- ・NR 協働における運営補助

目標（方針）

- ・利用者の“その人らしさ”を実現するため、療養と生活場面で質の高い支援をする
- ・目標設定の考慮点
 - ① 医療サービスの質改善
 - ② 業務の効率化
 - ③ 効果判定（アウトカム）

活動報告

- ・中間評価報告会とワークショップの開催
- ・入院診療計画書の運用方法の検討
- ・診療録の記録タイトルの変更（記録の細分化）
- ・カンファレンス規約の統一
- ・NR 体制の目標管理

【NR 感染委員会】

開催実績 8回

審議・検討内容

- ・院内感染対策委員会と連携し、NR 協働し感染予防対策の推進と標準化を図る
- ・継続的に感染対策における啓発活動を行い、療養生活の場において安全な環境を提供する。

目標

- ・院内感染対策委員会と連携し、自職場の感染に関する課題を抽出し環境改善できるよう推進する

- ・適切な手指衛生を実施し感染を予防する
（1患者あたり使用回数9回）

活動報告

- ・各職場で感染に関する課題を抽出
 - 3階病棟：トイレの衛生的清潔の保持
 - 4階病棟：口腔ケアに関する取り組み
 - 5階病棟：ごみの正しい分別
- ・ICT ラウンドへの参加（ICT からの FB）
- ・手指衛生方法の周知（院内感染研修）
- ・1患者あたりの手指衛生使用回数の管理
（平均 8.1 回）

委員長 鈴木寿子

【NR 医療安全委員会】

開催実績 7回

審議・検討内容

- ・患者に安全な療養生活を提供するための取り組みを確実に遂行する

目標

- ・医療安全管理委員会と協働し多職種で分析した対策を実践できるように支援する
- ・MRM を活用して巡視を行い、MRM 周知とマニュアル遵守に向けた取り組みを推進する
- ・事故防止にむけた K Y T を NR 協働で行い、リスク回避行動ができるスタッフの育成を図る

活動報告

- ・各部署から IA 事例を抽出。分析手法を学びながら手法を変えて対策の検討をした
3a 以上の転倒転落：12 件/159 件中
- ・医療安全管理委員会と連携（報告・相談）
- ・転倒転落予防の動画作成（体操動画）と啓蒙
- ・緩衝マット「ころやわ」の購入
- ・内服確認マニュアルの改訂
- ・内服ステルスラウンド実施と与薬手順の周知

- ・MRM 改定（患者情報用紙の追加）
- ・各部署の KYT 活動と内容の共有
- ・指さし呼称強化月間の設置とポスター周知

委員長 松尾はる美

【NR 教育委員会】

開催実績 8回

審議・検討内容

- ・NR 協働における方針を理解する
- ・質の高いチーム医療を提供できる職員を育成する

目標

- ・次年度に向けて、1～3 年目と中途職員に対する研修を計画する
- ・研修効果を可視化できる評価方法を作成、準備する

活動報告

- ・2023 年度新入職員研修の研修形態内容の企画と運営準備
- ・新入職員研修の計画書作成
- ・研修の効果判定方法の検討と確定（アンケート調査）
- ・1～3 年目職員に向けた研修計画の検討

委員長 豊田貴信

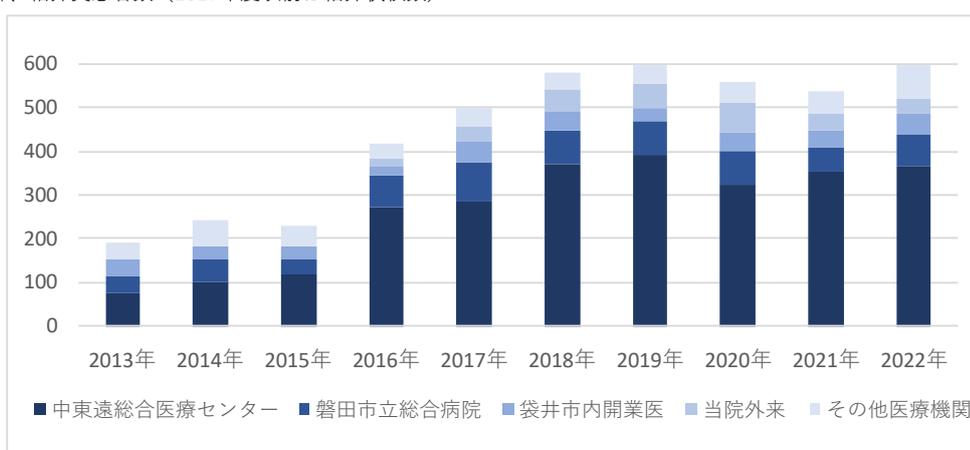
病院統計

■入院（紹介元別患者数）の推移

(単位：人)

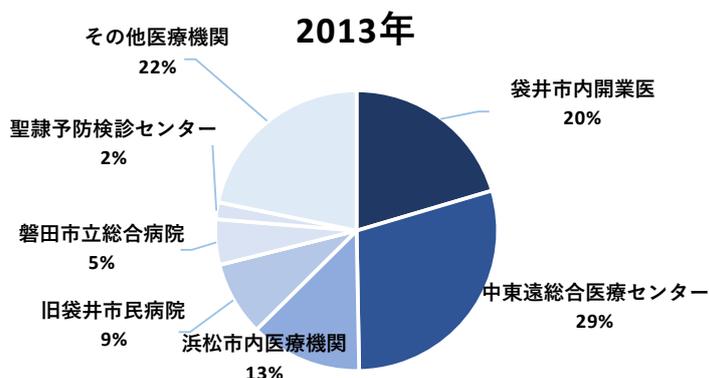
	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
中東遠総合医療センター	77	99	118	274	285	369	392	322	352	366
磐田市立総合病院	39	55	35	70	91	78	78	77	56	74
袋井市内開業医	36	28	30	24	44	45	31	43	39	48
当院外来	0	0	0	17	38	50	55	68	38	34
その他医療機関	39	59	48	32	42	36	42	47	51	76
稼働病床数(単位：床)	50	86	86	123	137	150	150	150	150	150
病棟稼働率(単位：%)	53.0%	68.1%	75.9%	72.8%	85.3%	81.1%	83.1%	84.0%	83.2%	83.0%

※2018年度以降、紹介実患者数（2017年度以前は紹介状枚数）

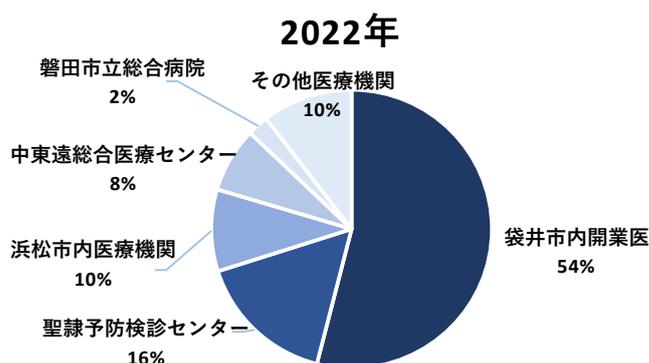


■外来（紹介元別受診者数の推移）

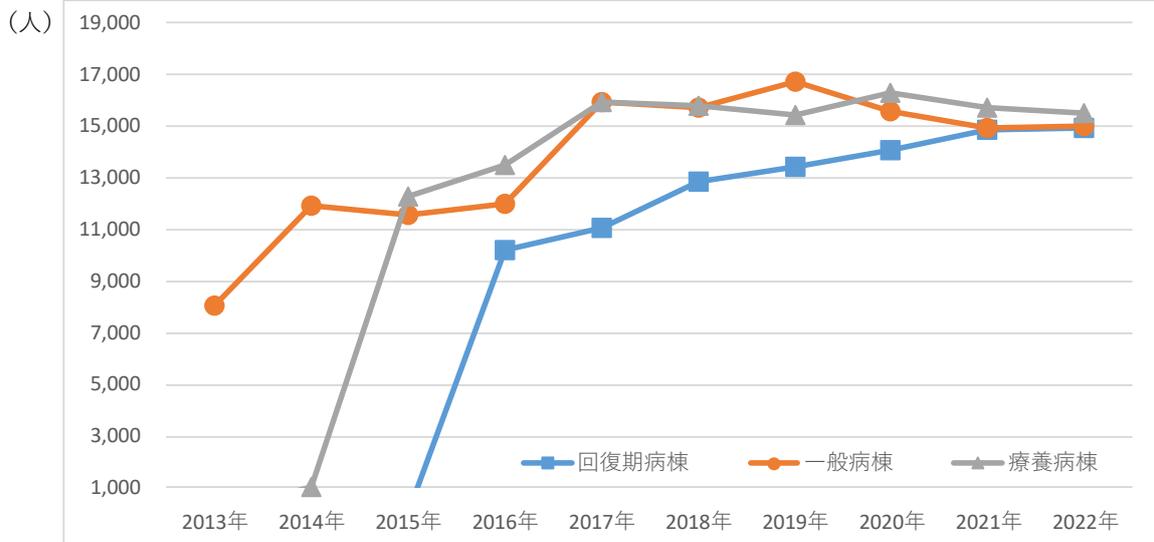
紹介元（2013年度）	（人）
袋井市内開業医	105
中東遠総合医療センター	151
浜松市内医療機関	66
旧袋井市民病院	44
磐田市立総合病院	27
聖隷予防検診センター	10
その他医療機関	112
総数	515



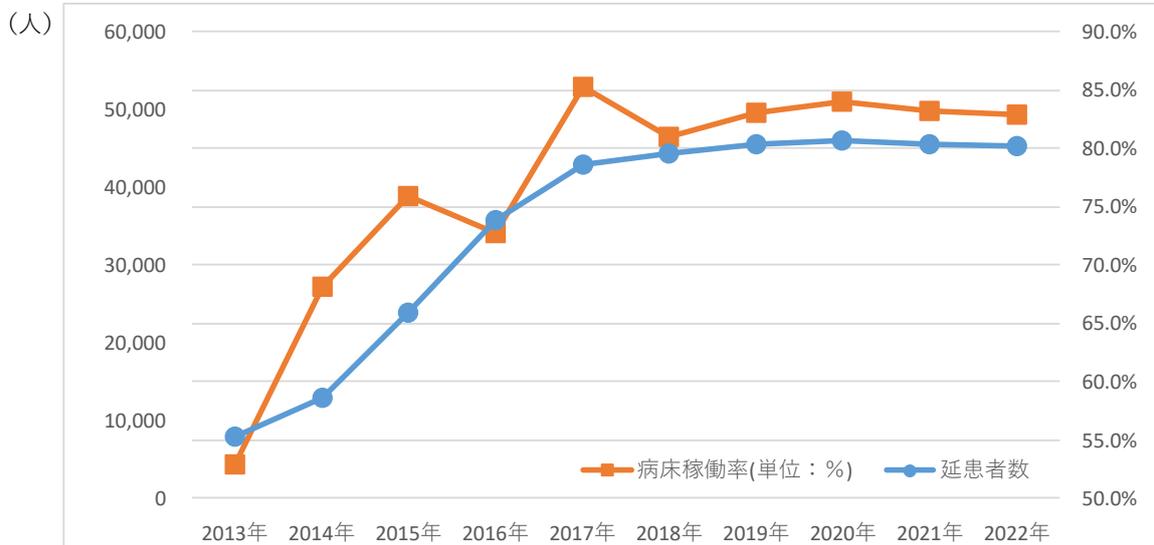
紹介元（2022年度）	（人）
袋井市内開業医	352
聖隷予防検診センター	105
浜松市内医療機関	62
中東遠総合医療センター	49
磐田市立総合病院	16
その他医療機関	68
総数	652



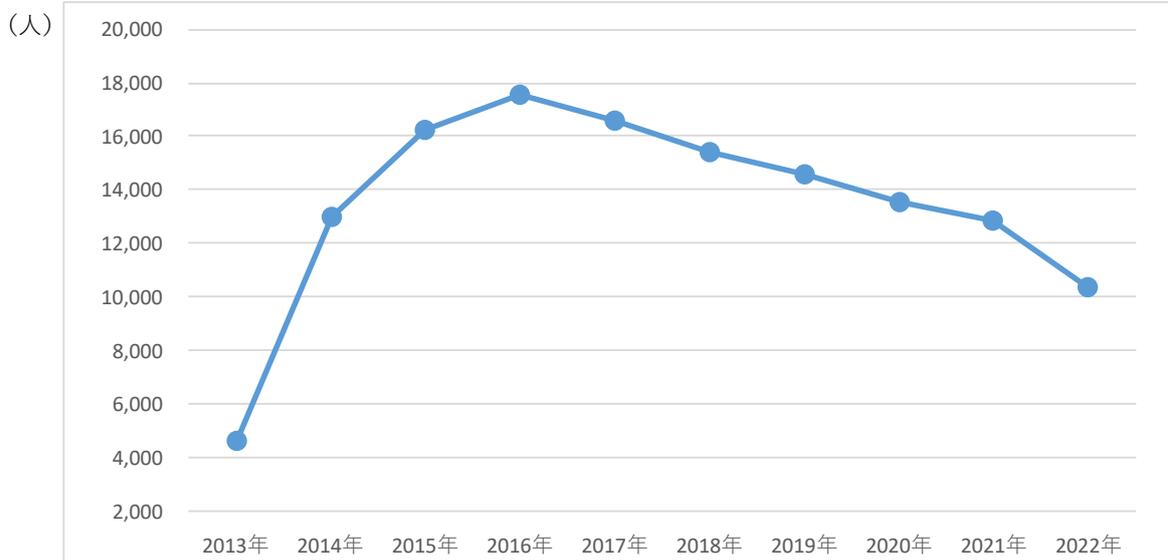
■病棟別入院患者数の推移



■入院延患者数と病床稼働率の推移



■外来患者数の推移



■2022年度 科別外来患者数

(単位：人)

診療科	初診	再診	一日平均	延人数
内科	1,463	3,755	21.5	5,218
脳神経外科	704	3,775	18.4	4,479
整形外科	14	70	0.3	84
リハビリテーション科	32	468	2.1	500
耳鼻咽喉科	70	133	1.7	203
合計	2,283	8,201	44.0	10,484

■2022年度 病棟別入院患者数

(単位：人)

病棟	新入院	退院	一日平均	延人数
回復期病棟	212	241	41.0	14,978
一般病棟	378	302	41.1	14,987
療養病棟	8	42	42.4	15,492
合計	598	585	124.6	45,457

■2022年度 検査機器の利用状況（委託撮影件数）

検査機器	件数
C T	161
M R I	295
合計	456

■2022年度 診療報酬請求書件数

請求区分	件数
入院	2,010
外来	8,443

患者満足度

■調査期間

外来 2022年12月12日～12月16日
 入院 2022年12月 5日～12月16日

■回収枚数

	外来	入院
配布	147	130
回収	147	12
回収率	100.0%	9.2%

■性別

	外来	入院
男性	80	7
女性	66	5
未記入	1	0

■調査結果（抜粋）

●来院の理由について（複数回答可）

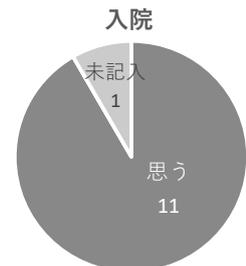
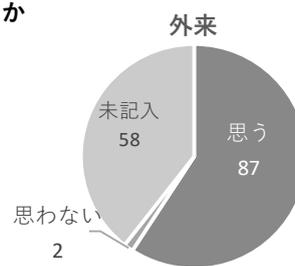
	外来	入院
他院からの紹介	32	8
自宅に近い	46	0
評判を聞いて	7	1
良い医師がいるから	9	1
職員が良いから	—	1
入院を断らないと聞いているから	—	0
設備が整っているから	3	0
以前よりかかっているから	38	1
その他	8	0
未記入	4	0

※入院のみの設問項目

※入院のみの設問項目

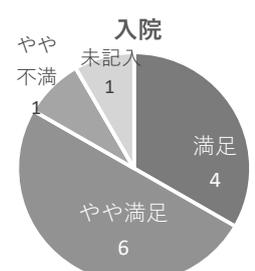
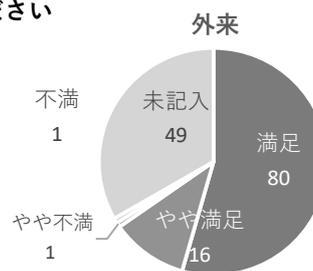
●あなたの大切な人に当院を薦めたいと思いますか

	外来	入院
思う	87	11
思わない	2	0
未記入	58	1



●診療全般に関する総合的な評価をお聞かせください

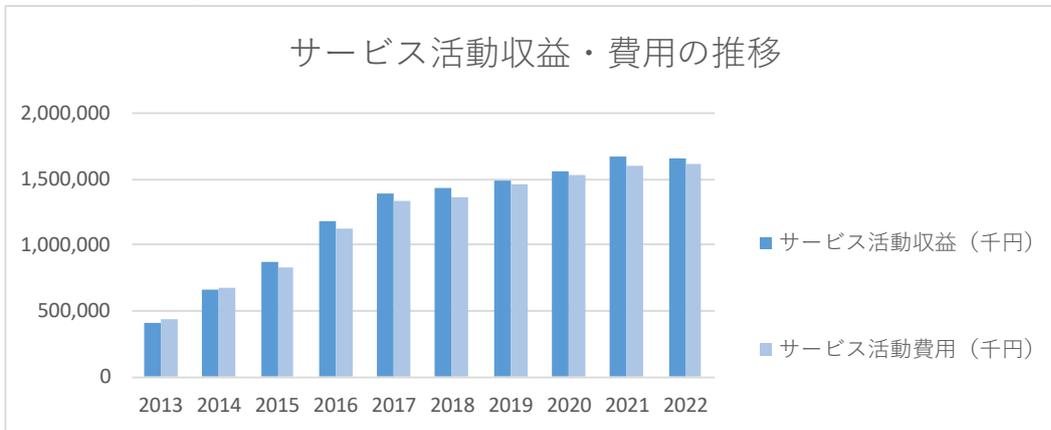
	外来	入院
満足	80	4
やや満足	16	6
やや不満	1	1
不満	1	0
未記入	49	1



財務統計

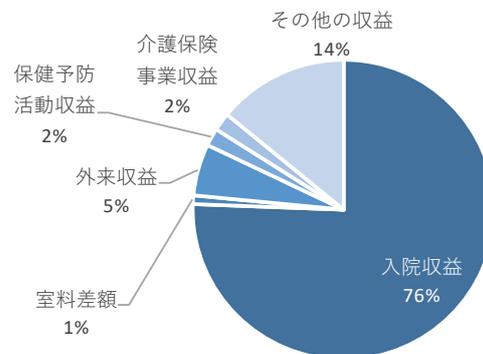
■ サービス活動収益・費用の推移

年度	サービス活動収益 (千円)	対前年比	サービス活動費用 (千円)	対前年比
2013	405,519	-	437,840	-
2014	652,963	161.0%	673,216	153.8%
2015	864,795	132.4%	832,692	125.8%
2016	1,174,679	135.8%	1,127,888	135.5%
2017	1,385,375	117.9%	1,327,469	117.7%
2018	1,424,215	102.8%	1,364,870	102.8%
2019	1,490,010	104.6%	1,459,927	107.0%
2020	1,552,278	104.2%	1,527,995	104.7%
2021	1,667,100	107.4%	1,600,190	104.7%
2022	1,661,016	99.6%	1,606,897	100.4%

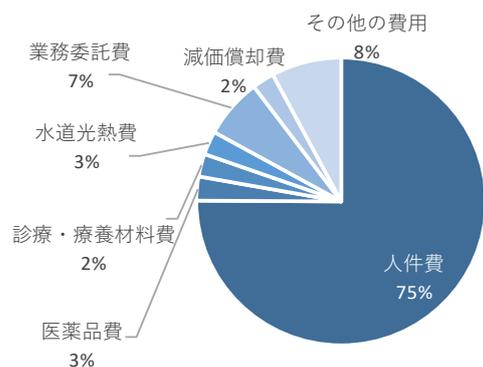


■ サービス活動収益・費用の内訳 (2022年度)

	サービス活動収益 (千円)	占有率
入院収益	1,255,665	75.6%
室料差額	15,522	0.9%
外来収益	92,441	5.6%
保健予防活動収益	31,643	1.9%
介護保険事業収益	32,251	1.9%
その他の収益	233,494	14.1%



	サービス活動費用 (千円)	対医収比
人件費	1,206,661	72.6%
医薬品費	43,340	2.6%
診療・療養材料費	41,164	2.5%
水道光熱費	42,594	2.6%
業務委託費	107,693	6.5%
減価償却費	39,635	2.4%
その他の費用	125,810	7.5%



センター機能 活動報告

センター機能	室長	メンバー
医療安全管理室	春日三千代	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師：春日三千代 ・薬剤師：鳴川貴司 ・放射線技師：疋野奈央子（事務局）
感染管理室	春日三千代	<p>【ICT（感染制御チーム）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医師：西田淳（ICD） ・看護師：鈴木寿子、植村尚美 ・薬剤師：鳴川貴司 ・検査技師：鈴木貴之（事務局）
退院支援室	春日三千代	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師：春日三千代、鈴木恵子（専任） ・社会福祉士：吉澤文美（専従）、内山安寿佳、福島順子 ・事務：黒崎歩実果
在宅支援室	望月亮	<ul style="list-style-type: none"> ・医師：望月亮 ・看護師：春日三千代、松尾はる美、植村尚美 ・療法士：豊田貴信、佐野真裕子 ・社会福祉士：内山安寿佳 ・事務：梶間弘美、松井克章、増澤友紀、溝口眞琴、平岩佳奈美

【医療安全管理室】

目標

- ・IA レポートを活用した医療事故防止対策
- ・有事の連絡対応
- ・医療安全に係る情報共有
- ・NR 医療安全委員会と連携した医療安全推進活動

活動報告

- ・IA 事例の精査と対策立案、経過観察
- ・医療安全管理委員会の議案検討
- ・医療安全ニュース発行（2回）

【感染管理室】

目標

- ・感染に関する職員教育・研修や、院内感染の状況把握、対策周知に関する業務を、ICT と連携して行う

活動報告

- ・院内感染対策研修会の企画、開催
任意1回、必修2回
- ・院内感染対策ラウンド
病棟は毎週、他職場は月1回程度実施

フィードバック、指摘事項の改善状況の確認

- ・感染レポート作成（毎週）

検査依頼、微生物検出状況の報告

耐性菌保菌状況の報告

- ・アンチバイオグラムの作成
- ・中東遠感染対策カンファレンス参加
6回参加
- ・新型コロナクラスター対応
7月・8月・10月・12月・2023年1月

【退院支援室】

目標

退院困難な要因を有する患者に対し、退院後も住み慣れた地域での生活や必要な医療の継続できるように、地域の医療・介護・福祉施設と連携を取り、患者及び家族の支援を行う。

活動報告

- ・転院相談の段階から地域医療連携室と連携して、退院困難な要因を有する患者を把握し、入院初期の段階から病棟看護師と共に退院支援を行った。
- ・病棟看護師が在宅退院の患者の退院前訪問を行い、退院後も住み慣れた地域での暮らしを継続できるように患者家族の支援を行った。
- ・在宅支援室 退院支援グループと連携を図り、地域のケアマネジャーや地域包括支援センターと退院支援について検討した。

- ・退院支援室としてリハビリカンファレンス、退院支援カンファレンスに参画した。

【在宅支援室】

目標

- ・病院から『住まい』へと生活の場を変える『移行期』を経験する／した患者を支援する
- ・地域包括ケアシステムの『HUB』

活動報告

『地域住民が、自宅で最期まで（看取りまで）自分らしく生活し続けるための（QOL向上、健康寿命延長）支援をすること、またそのための人材育成および院外連携先との“チーム感”を醸成すること』

と掲げ、2022年度は上記目標を目指し、訪問診療・看護訪問・連携支援・訪問リハ・人材育成の5Gで活動

〈訪問診療グループ〉

- ・2022年4月、リハビリ科訪問診療開始
（金曜 PM2 枠）5月1人目の診療受け入れ
- ・訪問実人数6名 延べ訪問件数38回
- ・7月ケアマネハウスくるみニーズ調査
- ・10月森町家庭医療クリニック訪問診療同行研修
- ・1月医療型ショートステイ検討

〈看護訪問グループ〉

- ・看護師の退院支援・在宅支援に関する実践能力を高めるため訪問看護出向事業に参加。7月～12月訪問看護ステーションルピナス袋井へ2名出向。
- ・12月訪問看護ステーションルピナス袋井より回復期病棟見学受け入れ
- ・退院前後訪問の推進（退院前訪問：回復期14件、一般8件、退院後訪問：回復期2件、一般6件）
- ・認知症対応力向上研修受講：看護師13名、看護補助者14名、クラーク3名、リハビリ10名、放射線技師3名の計43名
- ・ELNEC-J 2名受講
- ・退院前カンファレンス：回復期10件、一般49件、療養1件の計60件
- ・地域とのカンファレンス：外来2件（訪問診療に関連）、地域ケア会議1件、担当者会議3件

〈連携・支援グループ〉

- ・袋井市医療介護連携連絡会議の開催2回
看護サマリの改定、退院後の生活状況のフィードバック評価、病棟カンファレンスへケアマネジャーの参加について検討
- ・市内ケアマネジャーへアンケート実施し、意見交換
- ・退院支援カンファレンスへの継続参加(49回開催中、46回MSW参加)

〈訪問リハグループ〉

- ・平均利用者56名／月 提供回数792回／月

- ・感染対策や災害時の在宅系ガイドラインの整備作成（在宅医療BCP策定研修終了、院内規定に準ずる）
 - ・医療保険での訪問リハビリテーション検討
 - ・リハビリマネジメント加算取得の為の運用準備
 - ・シズケア*かけはし利用促進活動
 - ・言語聴覚士拡充模索（在宅で対応できるSTの育成）
- 〈人材育成グループ〉
- ・10/25 袋井市地域ケア座談会テーマ担当（地域医療連携室、在宅支援室協働で参加）
 - ・10/27 第2回在宅医療勉強会開催（参加者36名）
〈内容〉望月医師による講義、訪問看護ステーション富丘・聖隷ケアプランセンター森町による講義、グループワーク
 - ・2/22 第3回在宅医療勉強会・訪問看護出向事業報告会開催（参加者現地44名、web10名・12事業所）
〈内容〉望月医師による講義、出向した2名による報告、訪問看護ステーションルピナス袋井より報告

【診療部】

■診療科

- ・耳鼻咽喉科：1名
- ・脳神経外科：2名
- ・内科：2名（うち、非常勤1名）
- ・リハビリテーション科：1名
- ・整形外科：非常勤2名（聖隷浜松病院）

■振り返り

2021年度末に医師3名の退職があったものの、採用や事業団内連携による支援により体制を大きく変えることなく診療継続することができた1年であった。関係各位の尽力に感謝したい。

（トピックス）

・耳鼻咽喉科

10月に林泰広医師が着任し新設した。週2日のみだが外来診療を開始した。診療器具や検査機器が十分ではないが、問診を中心に診療を工夫し、必要時には近隣急性期病院や開業医にバックアップを依頼する体制とした。

・脳神経外科

4月に竹原誠也医師の着任に伴い、2名体制となった。外来を週4日から5日へと1年ぶりに復活させることができた。また、近隣急性期病院への訪問により病院間・医師同士の連携強化を図った。

・内科

医師数が4名から2名に減少したが、コロナ禍による感染症管理、発熱外来、コロナ患者の診療、ワクチン接種予診等多忙を極めた。平時とは異なる対応の必要性が継続していた。

・リハビリテーション科

5月から訪問診療を開始した。リハビリテーション医学的観点で在宅診療を支援するもので、在宅主治医からの依頼により訪問している。初年度は実患者6名、延べ訪問件数は38回（3.2回/月）であった。活動はまだ緒に着いたばかりで、院内スタッフへの周知不足や外部からの問い合わせへの対応などが課題となった。

2月から誤嚥の有無を簡便にチェックするために嚥下レントゲン検査（SWxp）を導入した。これにより実施件数に制約のある嚥下造影検査、嚥下内視鏡検査の対象者の選別に役立っている。

・整形外科

整形外科常勤医の退職に先んじて、2022年2月より聖隷浜松病院整形外科部長の佐々木寛二医師および同科主任医長の石井啓介医師による支援体制が始まった。入院管理の際には当院の常勤医師が主治医となるが、専門的判断について整形外科専門医から常時アドバイスを受けられる体制とした。これにより急性期病院からの転院例や診療所からの紹介例などを遅滞なく受け入れることが可能となった。また、カンファレンスへの参加、看護師・療法士からの相談などにも積極的に対応いただいた。

・褥瘡治療

従来、退職医師が担当していた褥瘡治療については、2022年3月より週一回、形成外科池羽杏葉医師による回診および治療が始まった。併せて、有病率等の可視化や看護師への教育も開始した。

■入外実績

■診療科別延患者数

（単位：人）

診療科	入院	外来
内科（発熱外来含む）	12,579	5,218
※発熱外来	—	930
脳神経外科	12,037	4,479
整形外科	5,412	84
リハビリテーション科	15,394	500
耳鼻咽喉科（10月開設）	35	203
合計	45,457	10,484

病院長 林 泰広

【看護部】

看護部部門目標を2022～2024年度の3カ年で立案、聖隷袋井のめざす看護の実現にむけ取り組みはじめた。2022年度は新人看護師3人、新人看護補助者2人を迎え入れた。2017年度に新人看護師を受け入れて以来、一般病棟にのみ配属してきたが、2022年度は、職場の活性化を図る目的で各職場に配属、支援を行った。また、新人看護補助者は、療養病棟に配属し患者の療養生活上の援助を学ぶ機会を多く持った。看護部教育においては、クリニカルラダーレベルに基づいた教育体系を整備、2023年度からは看護の骨幹となる知識や技術の習得に注力する。

2022年7月にCOVID-19によるクラスターが発生、中東遠総合医療センター感染管理認定看護師に応援要請を行い、ゾーニング、PPE着脱、資機材、人員配置などの助言を受けた。医療安全においては、患者確認が不十分でヒヤットした事例があった、患者確認の手順を再確認した。感染対策や医療安全は、看護部だけでなくNR(看護とリハビリ)協働にて取り組み成果をあげたい。

■部門目標

1. 専門職として実践能力を高め患者・家族にサービスを提供する

フィジカルアセスメント(以下、フィジカル)1研修は、クリニカルラダーレベル(以下、レベル)I習得を目指す新人看護師3人が受講した。フィジカル1は学研ナーシングサポートの活用、受講生同士による呼吸音聴取など座学で得た知識を演習で深めることができた。2023年度は、実際の患者のフィジカルアセスメントを特定看護師とともに実践できるように検討する。フィジカル2は、レベルIII以上の看護師4人が受講、特定行為研修受講中の看護師が講師をした。研修のねらいは、根拠を元に職場内でOJTすることができるとし、受講生の知識と身体診察基本手技の演習を行った。

2. 安全な組織文化を醸成する

診療補助、療養上の世話などにおいて患者確認が不十分でヒヤットした場面があった。NR医療安全、医療安全委員会を中心に患者のネームバンド装着の手順、マニュアルを改訂、患者確認が形骸化しないように努めた。COVID-19によるクラスターが5回*発生した。それぞれの病棟の患者の特性や人員配置が異なるため、その都度、ゾーニング、特に夜間の人員配置に難渋した。しかし、このクラスター経験は、有事への備えに対するマネジメントのあり方を

改めて考える機会となった。

(クラスター期間)

*3階：7/16～7/31、10/1～10/17、
12/1～12/23、

4階：1/24～2/16、

5階：8/19～9/1

3. 新しいことに挑戦し続ける組織へと成長する利用者のその人らしさを実現するため、療養と生活場面で質の高い支援する目的で、NR(看護とリハビリ)協働を立ち上げた。NRにて教育、感染対策、医療安全にて取り組み成果をあげていく。を。職場の活性化を図るために、新人看護師を各職場に配属した。新人は、成長を認め合う同期が職場にいないため、研修修了後に勤務時間内で新人だけで思いを表出する機会をもった。また、3人の新人が自職場以外でも多くの看護を経験できるように他職場研修(1人×2つの職場×5日間)を実施した。この他職場研修は、当院に入院する患者の特徴を知る機会にもなった。ラダーIII以上の看護師2人が静岡県看護協会訪問看護出向事業にて訪問看護ステーションルピナス袋井にて3ヶ月間研修を行った。訪問看護の同行から始まり単独での訪問ができるまでに成長した。この経験を看護部や職場の人材育成、退院支援の質向上に活かしていく。

4. ヘルシーワークプレイス(健康で安全な職場)を意識した職場づくりを実現する

2022年11月以降、習慣化していた始業前時間外勤務(情報収集)をなくし、各勤務始業開始後に情報収集する時間を保障した。子育て、介護の両立が上手いかず、退職となる職員もいた。また、職員のコロナ陽性に伴う欠員に対しては、外来や他病棟からの応援、リハビリスタッフの早遅、夜勤の実施で患者の安全を守ることができた。

5. 多職種・地域と連携するなかで看護の力を最大限に発揮する

院内ACP、認知症ケアプロジェクトに看護師や看護補助者が参画し、袋井市や多職種と取り組んだ。ACPについては、勉強会を開催し袋井市「こころのノート」の啓発に取り組んだ。

看護部長 春日 三千代

【3 階病棟】

■職場方針

チーム一丸となって最大限の機能を発揮できる地域No.1のリハビリ・病棟生活の提供
その人らしくいきいきとした暮らしを支援する
仕事と生活の調和をとり笑顔で活気ある職場づくり

■目標

1. 回復期病棟 10 箇条に沿った視点で看護・介護実践ができる
2. 看護過程がみえる記録を推進する
3. 転倒再発防止 CF 実施率を上げることで受傷を伴う転倒減少を図る
4. スタッフの意識向上により身体拘束が減少する
5. 回復期病棟の新人教育体制を構築し実践・評価ができる
6. 多職種とともに ICF を用いた CF を行い FIM 利得向上を図る

■振り返り

1. 回復期病棟 10 箇条に沿った視点で看護・介護実践ができる
看護とリハビリと協働し回りハ 10 か条 PJ を立ち上げて取り組みを開始した。コロナ発生によりあまり活動できなかつたが、全患者対象としたガーグルベースン使用率低下を目標とした。使用している患者を可視化するように業務改善し減少に繋がった。また、回りハ 10 か条の勉強会を実施し、職員の周知を図った。
2. 看護過程がみえる記録を推進する
形式監査 10 月、質監査 11 月実施した。説明前後の反応の記載や看護計画へ看護実践を反映させることが課題となった。院内パス使用患者の記録を見直し、パス活用を促すとともに記録の簡略化を行った。FIM 記録テンプレート（入浴・食事・排泄）を見直し、看護補助者が正しく記録できるように修正を行った。
3. 転倒再発防止 CF 実施率を上げることで受傷を伴う転倒減少を図る
3a 以上の転倒 7 件、うち 3 b 2 件発生、昨年よりは減少した。転倒再発防止 CF を行い、実施率 51%であった。医師参加率 91%、ヘルパー参加率 0%、薬剤参加率 7%であり、CF の内容を共有する機会は設けているが、次年度は多職種が参加できるように取り組みを検討とする。転倒再発防止 CF 後の環境調整が継続できているかの確認をするように環境ラウンドの方法を変更、20 時台の転倒が多い傾向にあったため、夜勤の休憩時間の見直しを行った。ま

た、入院当日からリハビリ介入を開始し、リハビリと看護で入院初日から環境調整を実施することで、転倒減少へ繋げることができた。

4. スタッフの意識向上により身体拘束が減少する

身体拘束率 16.7%、昨年と比較して増加した。隔離されたコロナ感染患者の安全面を優先し身体拘束を実施したことや、病床数増加に伴い脳疾患患者が増えたことが影響した。

5. 回復期病棟の新人教育体制を構築し実践・評価ができる
年間スケジュールを作成し実施した。他職場研修により未経験の技術を補うことができた。看護補助者は中途採用者向けの教育の見直しを行った。

6. 多職種とともに ICF を用いた CF を行い FIM 利得向上を図る

ICF を用いた中間 CF シートの導入を開始した。中間 CF の準備や CF 時間は延長することなく実施できており、焦点化して検討できるようになり、情報共有の場ではなく問題検討の場とすることができた。CF の進行は個人の能力差がでてしまうため、訓練の継続が必要であり、次年度は演習を通して訓練を行っていく。FIM 利得向上に向けた意識的な介入はできておらず次年度の課題とする。

■まとめ

2022 年度は病棟方針を元に医師、リハビリ、看護、MSW とともに活動を行った。年度始めには回復期病棟についての勉強会を行い、看護とリハビリでお互いの業務を知ることができた。コロナのクラスター発生により思うように活動はできずに頓挫したこともあったが、コロナによって業務を協働する機会があり、お互いの業務への理解を深めることできた。看護師の遅番業務導入やリハビリの土日遅番業務開始し、協働して夕方のリハビリを増やすことができた。コロナにより稼働が一時的に下がったことを契機とし、他病棟とのベッドコントロール会議を週 1 回実施開始した。回りハ病棟管理表を作成し退院の可視化をすることで、医師、看護、リハビリが情報共有し円滑なベッドコントロールに繋げる事ができた。役職者だけでなく、スタッフ一人一人の意識改善に繋がった。次年度も多職種と協働して活動を行っていく。

課長 松尾 はる美

【4 階病棟】

■職場方針

患者や家族のニーズを捉え、その人らしい選択や生活ができるケアを提供する

■目標

1. 看護師と療法士が協働し質の高いサービスを提供する
2. 専門職として自律した実践のための挑戦をする
3. 自分も相手も尊重するコミュニケーションで共に学び合う

■振り返り

今年度は既存の係活動に加え、プロジェクトとして活動していた取り組みを質活動と位置づけ、5つの係活動と4つの質活動で実践の質を維持、向上することに挑戦した。看護師と療法士が協働する「NR協働」の実践の場を、係活動と質活動とし、「看護師と療法士の協働のためのビジョン 2024」を掲げ互いの職種を理解するよう務めた。

1月22日に発生した病棟内クラスターでは、発生後の1週間を看護師と療法士がパートナーを組み患者の療養生活を支援した。想定外の形で業務上の協働となったが、パートナー同士で行動計画を共有し、看護師と療法士のペアで清拭する姿や、一緒に検温や身体観察をする姿は、協働そのものであった。係活動を協働することで相手を理解してきたからこそ業務上で協働し療養の支援ができたと考えている。

COVID-19の病棟運営への影響はこれまでよりも大きく、夏以降の市中感染の拡大によりスタッフや家族の感染が増加したことで、勤務変更が常態化する一年であった。急な勤務変更に応じてくれたスタッフの厚意が病棟の看護を支えた。先に述べたクラスター発生時には、夜勤看護師を増員するために、日勤看護師の配置を減らし、変則12時間勤務を導入した。感染終息期には、看護補助者4名が全員出勤し、1日で35名余りの患者の入浴介助を行った。病棟の底力を頼もしく評価したい。委員会や係の活動は院内の感染状況の影響を受け、予定していた会議が中止や延期となり、思うように活動が進まないジレンマを経験した。この経験を元に、次年度は日程や活動のスケジュールを検討していく必要がある。

変化することに臨機応変に対応することが求められる中で、MRMの服薬方法の変更に伴い各勤務帯の服薬方法を変更し、さらには始業前超勤の常態化を是正するための業務改善に取

り組んだ。3月から看護方式を見直し、日勤帯の2リーダー制を導入している。変化を柔軟に受け入れ、安全で質の高い看護実践を目指し、挑戦し続けた一年であった。以下には、看護部部門目標に対する評価を項目毎に記述する。

1. 専門職として実践能力を高め患者・家族にサービスを提供する
2022年度新たに、認知症ケアカンファレンスを開始し、定着した。療法士もカンファレンスに参加することで、各専門職の意見を統合しケア計画に反映することができた。看護計画のカンファレンスは看護過程の評価修正の場となり、チームで患者を支える構造が整った。退院前訪問8件、退院後訪問6件は年度始めの目標値に未達となったが、その人らしく生活できるよう支援した。
2. 安全な組織文化を醸成する
入院患者の転倒発生率は5.22%(前年度2.23%)。内科入院の患者が増加し、身体機能が向上しにくい患者層が増えたことが要因の1つと考えた。転倒転落によるレベル3以上の負傷率は0.16%(前年度0.13%)と昨年と変わらなかった。転倒件数が増加したが、受傷を伴う転倒は前年度と変わらなかった
3. 新しいことに挑戦しつづける組織へと成長する
専門職間の協働を推進するため、「看護師と療法士の協働のためのビジョン 2024」を策定。今年度は初年度であり、職種間の違いを認識する事を目標にした。各係活動がNRで構成される仕組みを整え実践した。
4. ヘルシーワークプレイスを意識した職場づくりを実現する
始業前超勤が常態化しており、業務改革を行い、始業前超勤を行わなくても勤務出来るよう調整した。3月から平日日勤リーダーを2名体制とし、若手リーダーが日々リーダーシップを学ぶことができる環境を整えた。
5. 多職種・地域と連携するなかで看護の力を最大限に発揮する
訪問看護ステーションとの合同カンファレンスを週1回実施。地域の看護師の視点でアドバイスを受けた。訪問看護出向事業へ看護師1名を派遣した。病棟の退院支援能力の向上につなげていく。

課長 渡邊 真智子

【5 階病棟】

■職場方針

1. 患者・家族の尊厳を守り、医師を尊重した療養環境を提供する。
2. 患者が安全な療養生活を送れるよう、専門分野の知識・技術を高める
3. 互いの向上心に働きかけ、一人ひとりが互い。

■目標

1. 専門職として実践能力を高め患者・家族サービスを提供する
 - 1) 新人教育プログラムを整備し職場教育プログラムを実践する
 - 2) 職場の質指標を再考し、療法士と協働しながら看護の質向上を図る
 - 3) 患者の状況にあった看護過程を展開し、内容がみえる記録ができる
 - 4) 専門職として必要な知識、技術を習得し質の高いサービスを提供できる
2. 安全な組織文化を醸成する
 - 1) マニュアルを遵守し患者誤認による IA を 0 件にする
 - 2) ガイドラインに基づいた感染管理を実践する
 - 3) お互いに指摘しあえる安全な職場風土を創る
 - 4) 報告、相談、連絡が確実にできる看護師、看護補助者を育成する
3. 新しいことに挑戦しづける組織へと成長する
 - 1) 看護職員と療法士が協働する体勢を整備する
4. ヘルシーワークプレイスを意識した職場づくりを実現する
 - 1) すべての職員が多様な働き方ができる職場環境を整える
 - 2) 腰痛対策を充実させ身体的負担の軽減を図る
 - 3) 有事の際に臨機応変に対応できる体制を整える
5. 多職種・地域と連携する中で看護の力を最大限に発揮する

■振り返り

1. 今年度、新人看護師が初めて 5 階病棟に配属された。看護部新人看護師教育プログラムに沿って、病棟の教育体制を整え、看護部教育委員会内でプログラムの進捗状態、新人看護師の様子など共有、相談しながら新人を受け入れることができた。看護補助者は高卒 2 名の新人を受け入れ、社会人 1 年目を迎えるにあたり、社会人教育の必要性を感じた。

質の向上では、スキンテア件数が昨年 129 件/年から今年度 89 件/年に減少することができた。介助者要因のスキンテアを現象させるため、療法士と協働しポジショニング、拘縮がある患者の指の開き方、口腔ケアの勉強会を開催し、日々業務に活かすことができた。

意思決定支援では、患者や家族の意思決定を確認するコスモシートの記載 100%を目指したが、記載もれや長期入院患者の記載内容が更新されないケースが多かった。そこで、コスモシートの運用方法を改定し、長期入院患者の情報が更新されるような仕組みをつくった。また、意思決定支援に関するカンファレンスが定期的に行われるように病棟のカンファレンスのスケジュールに組み込み、改善前は 1～2 件/月であったが、改善後は 3.1 件/月開催と開催回数は増加した。意思決定支援カンファレンスの年間開催件数は 33 件であった。

看護記録は、患者の状態にあったタイムリーな看護計画を立案し、個別性のある看護過程を展開するようにスタッフに働きかけ、入院患者の看護計画を見直すことができた。

2. 医療安全では、患者誤認の IA は 0 件であった。IA カンファレンスは病棟の職員と療法士が参加し、看護、リハビリ両方の視点から対策を考えることができた。

感染管理では、コロナのクラスターが発生し、対応した。他部署の支援を受け、感染を拡大させない、患者の安全を守るための業務を考えた。遅番勤務に療法士が入り、勤務での協力もおこなうことができた。

3. NR 協働となり、療法士と共に係活動をおこなう体制を整えた。コミュニケーションが取りやすくなり、お互いの視点で意見を出し合うことができ、患者ケアの幅が広がった。
4. ヘルシーワークプレイスでは、看護補助者の正規職員減少に伴い、2 交代制勤務導入、遅番時間の変更をおこなった。2 交代制を導入したことにより、制度利用者が退勤したあとの人員確保、病院出勤日数の減少につなげることができた。また、勤務前超過勤務の削減、患者ケアに当てる時間を確保するため看護師の日勤業務を変更した。
5. ACP のプロジェクト参加や地域の座談会などに参加し情報を共有した。

■まとめ

今年度は手探りではあったが療法士と協働し病棟運営をおこなった。コロナクラスターでは職員一丸となって対応することができた。

課長 鈴木 寿子

【外来】

■職場方針

1. 外来看護の専門職としての役割を発揮し、外来看護が自律する
2. 地域で暮らす患者がその人らしくいきいきと生活できるよう、入り口と出口をシームレスにつなぐ

■振り返り

2022 年度も新型コロナウイルス感染症(以下、コロナ)への対応に注力した1年であった。2021 年度に引き続き、袋井市民への新型コロナウイルスワクチン接種を実施した。また、市中におけるコロナの感染拡大や蔓延に伴い発熱外来枠の増加や開業医が休診となるお盆、年末年始には臨時で枠を設け対応した。加えて、当院で診断されたコロナ陽性者へのテレフォンプォロアアップを行い急性期病院の業務逼迫を軽減・回避、及びコロナ陽性者の不安に対応した。

コロナ以外では、2021 年度に開始したりハビリテーション科ボツリヌス療法も順調に件数を伸ばし、訪問診療での開始にむけ運用を整えた。

■目標と実績・評価

1. 看護の質の向上を図る
外来業務マニュアルの整備が行き届かず、異動者は業務を覚え慣れることに苦労していた。一人しか知らない業務や言い伝えになっている業務が多く存在していた。そのため、2021 年 12 月より業務の標準化を目的に業務マニュアルの作成に着手した。目的を職員全員で共有し、それぞれが得意とする分野は自主的に手をあげて作成に取り組むことができた。2021 年 4 月より開始されたボツリヌス療法については、マニュアルの作成、薬剤の勉強会も行い職員への導入を丁寧に実施した。2022 年度年度は 39 件ボツリヌス療法を実施した。
2. 専門職として自律した看護職員の育成
ELNEC-J 講習会への参加、高次脳機能障害についてのオンライン研修会への参加、袋井市在宅医療介護他職種連携推進事業研修会への参加、袋井包括ケア座談会への参加ができた。
3. 働きやすさを追求し労働環境を整備する
各自が休憩時間の管理をしていたためいつ誰が休憩に入っているのか把握が困難であった。午前中の診察の延長、発熱外来やコロナワクチン接種の対応で休憩時間が取りづらく鳴っていた。そのため、フリー看護師がアサイメント表を活用し休憩時間の可視化をし、必要な休憩時間を取ることができるようになった。
4. 急性期病院、当院、在宅をシームレスにつなげるために主体的な役割を担う

患者情報ファイルを作成し、意思決定支援が必要な患者の情報をスタッフ間で共有した。社会資源の活用について情報提供をし、訪問看護やケアマネとの情報共有も行うことができていた。

4. 感染管理の徹底、発熱外来の継続
2020 年 11 月からドライブスルー方式で発熱、風邪症状の患者を対象に発熱外来を開始した。2022 年 2 月より当院でコロナ陽性と診断された自宅療養陽性者への体調確認のためテレフォンプォロアアップを開始した。2021 年度は延べ 48 件、2022 年度は延べ 645 件に実施、保健所や中東遠医療センターと連携を取りながら在宅療養の患者の支援をおこなった。

外来係長 水野英子

【リハビリテーション室】

■職場方針

私たちは、患者と同じ視線を持ち退院後の生活を重視したリハビリテーション医療を提供します

■目標

1. 各チームで特徴を捉えたりハビリテーション医療の質を考え提供できる
2. リハビリ室スタッフの人材育成とディーセントワークの推進
3. 訪問リハ・袋井市総合事業の拡充と連携の強化

■振り返り

1. 【回復期病棟】

- 1) リハビリ提供量の充実
患者1人あたり5.9単位/日の提供目標に対し、出勤人数是正や土日祝の稼働強化の実施により年間平均6.0単位/日と達成された
- 2) 実績指数の向上（実績指数40以上）
Motor FIM45点以下の対象者への積極的な機器使用や入退院コントロールを可視化したことで実績指数42.6と達成された
- 3) 特徴を捉えた質向上に向けた取り組み
高次脳機能障害患者の自動車運転評価に対して自動車学校との連携と広報を開始。年間評価5件/年の実績となった。

【一般病棟】

- 1) 在宅退院患者へ質の高いリハビリの提供
患者1人あたりのリハビリ提供目標3.6単位/日に対して3.3単位/日と未達、また看護師参加型の在宅退院患者に対するH・E実施件数は10件/年を目標としたが、8件/15件と未達であった。感染状況拡大の影響が大きかったと思われる。

- 2) 専門性の向上と知識の共有
呼吸循環・看取り・認知症の研修会へ参加やNR協働による勉強会開催を予定していたが、感染の影響で未達となった。転倒予防チームによる転倒件数減少を図った活動では、目標数40件以下を目標としたが、67件と増加した。同一患者の転倒数増加が影響した結果となった。

【療養病棟】

- 1) 質の高いリハビリの提供
患者1人あたりのリハビリ提供目標1.0単位/日に対して0.8単位/日と未達、介助者要因によるスキンテアに対して昨年度比20%減（2021年度41件/年→2022年度32件/年）を目標としたが、50件で未達とな

った。

- 2) 病棟と協働した取り組み
意思決定支援の運用や手段検討を行い、意思決定カンファレンス1回/月の目標に対して、2回/月と達成した。

2.

- 1) スタッフの役割を明確にした人材育成
事業団リハラダー受審率30%以上の目標に対して、声掛けや支援により42%（20名受審）と達成した。また、機器使用を通じ機器使用のスペシャリティーを育成する目的でOJT5件/月（1機器）を目標としたが、0.25回/月と未達となった。機器を使用した効果判定や指導者教育を含め次年度への持ち越し課題となった。
- 2) 目標単位数18.0単位/日の取得
リハ受付業務の整備をはじめ業務内容を見直し、ロスとなっていた書類業務の効率化を図ったが、感染の影響により療法士16.3単位/日（PT17.2/OT16.7/ST14.9単位/日：摂食機能を含む）の取得に留まった。
- 3) 研修会や学会への参加・発表
研修会・学会の支援規定を策定し、院外でのOff-JTを勧めながら学会発表を7本/年（昨年度3本/年）と目標設定した。役職者やリーダーの支援体制を明確にしたことで11本/年の発表へ繋がり、次年度に向けて3本の研究が既に進んでいる。
- 4) 有給休暇取得率40%以上と労務環境整備
チーム管理体制へと変更し、有休取得率を可視化したことで計画的な有給取得に繋がった。年平均55%の取得率となったが、コロナ療養による影響が示唆された。

3. 【訪問リハビリテーション】

- 1) スタッフの効率的な働き方の整理と見直し
シズケアかけはしの利用や業務内容の可視化、マニュアル整備を進めたことで利用者数55名、提供回数773回へと繋がったが、超過勤務時間10%削減には至らず課題が残った。

【袋井市総合事業】

- 1) 袋井市に対して公益的な事業の推進・拡大
でんでん体操をはじめ総合事業への参画は44件の派遣となり昨年度より増加。地域リハ推進員の取得者の推進を進め2名追加となった。効果判定については次年度への持ち越し課題となった。

室長 豊田 貴信

【薬剤室】

■目標

1. 薬剤管理指導業務の充実
2. 医薬品適正使用（プレアボイド）の推進
3. 一般名処方加算取得件数の増加
4. 後発医薬品への切り替え

■振り返り

1. 薬剤管理指導業務の充実
230 件/月（非算定件数を含む）の薬剤管理指導件数を目標としていたがコロナワクチンの対応やスタッフの教育等に業務負担がかかり実績としては 159 件/月と目標には届かなかった。
2. 医薬品適正使用（プレアボイド）の推進
副作用の重篤化回避：7 件
副作用の未然回避：12 件
薬物治療効果の向上：4 件
計 23 件のプレアボイド報告があった。プレアボイド事例については薬剤室内のカンファレンスにて共有することで薬剤室スタッフの知識の向上になり、プレアボイド報告件数の増加の要因となった。
3. 一般名処方加算取得件数の増加
院外処方せんにおける一般名処方加算取得件数を増加させるために、処方マスタの整備をした。
2022 年度実績
一般名処方加算 1：74 件/月（前年度比 925%）
一般名処方加算 2：542 件/月（前年度比 189%）
4. 後発医薬品への切り替え
2022 年 12 月から 5 薬剤を後発医薬品に変更した。4 か月の実績ではあったが約 47 万円の経済効果が得られた。

薬局長 鳴川 貴司
記載 滝浪 素由

【臨床検査室】

■目標

1. 検体検査の質の保証
2. 要員の業務均一化
3. チーム医療への参画
4. 院内感染対策活動

■振り返り

1. 検体検査の質を保ち、さらに向上させるため、検査装置の稼働時点検を充実させること、主要装置については、年 1～2 回の保守点検を実施し、装置の安定稼働に努めた。
また、測定値の保証のため、外部精度管理調査を受審し、良好な結果を得ている。
凝固検査装置を更新し、故障による測定中断リスクを低減し、質の向上を図り質のった。
2. 少ない人員のなかで効率よく臨床検査室を運営するため、対応する検査種、特に需要の多い心臓超音波検査について均一化に向けトレーニングを継続している。
また、統計処理や物品管理などの事務業務についても均一化を進めた。
3. 臨床検査室として関わるチーム医療として、褥瘡回診、N S Tカンファレンスを上げている。業務の都合上、回診やカンファレンスの場への参加が困難であるが、栄養評価に用いる検体検査結果について評価表を作成し提供、検査依頼の提案を行った。N S Tカンファレンスについては、全例について評価表を提示した。
4. 院内感染対策委員会への関わりとして、
 - ・細菌検査依頼状況、微生物検出状況について、委員会への報告、レポートを作成し職員への報告
 - ・感染ラウンドとして、職場の環境、耐性菌検出患者の療養環境などを確認し、改善の提案、改善状況の確認
 - ・アンチバイオグラムの作成
5. 新型コロナウイルス感染症への対応として、発熱外来における検査実施、緊急入院患者対応として、検体採取と検査実施、病棟クラスター対応として、勤務時間内外に関わらず検査対象者全例の検体採取と検査を行った。
また、ゾーニングの検討、環境の整備に協力した。

技師長 鈴木 貴之

【画像診断室】

■目標

1. 被ばく低減施設認定取得に向けた準備
2. ニーズに合った、質の高い画像提供
3. 医療機器共同利用率の向上
4. 袋井市肺がん検診の受入体制強化
5. タスクシフトを見据えた他職種協働体制

■振り返り

1. 被ばく低減施設認定のサーベイ再開に向け、掲示物や、資料の内容を順次見直しを行った。被ばく相談員資格試験は受験が叶わなかったが、継続して取り組んでいる。
2. 一般撮影では、ポジショニング要因での再撮率を5%にすることを目標に、反省会の時間を設定した。再撮率は6.8%であったが、傾向の共有は、スキルアップに貢献している。また、脳外科、耳鼻科領域のCT、MRIシーケンスを医師のニーズと画質の確認を行った。
3. 近隣開業医訪問と資料提供を行った。開業医の医師と面会した事で、先方のニーズに敏感に対応でき、良好な関係形成に役立っている。特にMRIは、整形外科閉鎖の影響もあり、予想を超える結果となった。また、骨密度検査受託の要望に応えることもできた。CT 8件/月、MRI 20件/月
4. 地域における公益的な取り組みとして、2021年度より保健事業部より委託撮影を行っている、袋井市胸部がん検診の受入体制強化を行った。撮影フローの見直し、作業のスリム化を進めた。結果、受け入れ人数を20名/30分に増加する事ができた。
5. 診療放射線技師の告示研修は全員受講完了した。これにより、CT、MRI造影剤投与時の静脈穿刺、造影剤投与を行うことができるようになった。今後、医師看護師のタスクシフトを見据え、放射線技師で対応できることを各方面との調整と体制（教育・安全）整備を進めていく。

室長 疋野 奈央子

【栄養管理室】

■目標

1. 安全で質の高い食事サービスの提供
 - ・ 毎月1回以上のイベント食の企画、栄養部門対抗料理対決への参加を通して調理技術、食事満足度の向上を図る。
 - ・ 食事摂取基準に準じ、食塩7.0g/日に調整
 - ・ 衛生アドバイザー評価 94%以上
2. 安全で質の高い医療サービスの提供
 - ・ 一般病棟より在宅退院する患者に栄養指導を100%実施する。
3. 地域包括ケアシステムの推進
 - ・ 「近隣施設食事形態比較表、看護サマリ・患者情報シートに食形態コード掲載」の活用状況を評価する。
4. 働きやすい職場環境づくり
 - ・ テンプレート、栄養指導パンフレットを栄養部門で共有し、業務の効率化を図る。
5. 災害時フローチャートの作成

■振り返り

1. 食材費の値上げや減塩化(1日の食塩8.1g→7.2g)に伴う献立調整を行いながらも、地産地消献立等イベント食は予定通り実施し、職員食アンケート：味付け丁度良い91.4%(前年度87.2%)と食事満足度の向上を図れた。衛生アドバイザー評価90%であったが、委託会社とともに問題点を確認し、衛生管理の改善に取り組んだ。
2. 病棟課長と指導実績、課題を毎月確認し、病棟スタッフとも共有することで、必要性ある栄養指導は80%(取り組み前31%)実施に改善した。
3. 活用状況アンケート：42名/116名が回答。各取り組みの認知度や課題を確認した。認知度の低い「近隣施設での食事形態比較表」はじめ各種マニュアルや資料を再周知した。
4. 9病院で分担することで業務軽減を図りながら、最新のガイドラインに沿った21種類の栄養指導パンフレットを新規作成、栄養部門全体で共有することができた。
5. フローチャートにより、災害時の食事提供方法を判断しやすくなった。

室長 望月 麻妃

【事務課】

■目標

1. 患者・近隣施設・学生の琴線に触れる（選ばれる、良さそうな病院だねと思われる）ために創意工夫した、病院実績・病院機能の魅力的な情報提供。
2. 病院の課題・サービスの向上に対して、事務課の枠を飛び出して他職場を巻き込んだ改善策の提案。
3. 超過勤務時間の平坦化による、働きやすい職場環境づくり。
4. 収益アップ（またはコストダウン）・利用者増のための企画提案。
5. 同業他事業所とのベンチマーク、分析データの作成による、病院機能の見える化。

■振り返り

1. 指定管理更新のための準備からプレゼンテーションを実施し、第3期指定管理期間（2023年4月1日～2028年3月31日）の指定管理者として選定された。
2. 新型コロナウイルス感染症の院内クラスターが発生した際には、近隣医療機関との調整・院内ベッドコントロールに携わるとともに、みなし重点医療機関の補助金申請を行うなど、病院運営に貢献することができた。
3. 2022年6月に行われた適時調査の事前準備・対応を行った。病歴管理室のパーティション設置など改善事項には早急に対応し、施設基準の順守に努めている。
4. 2022年10月の病院長交代に伴う行政手続き、近隣医療機関への紹介・宣伝、診療体制の再構築、市民向けの広報に携わった。
5. 広報ふくろいへの「知って欲しいな聖隷袋井市民病院」と題したコラムの通年掲載を行い、市民向けの新たな情報発信に取り組んだ。
6. 病院基幹システムのネットワーク更新をトーテックアメニティ社・本部情報システム部とトラブル無く完了し、システム通信の安定化に貢献した。
7. ふじのくにねっとへの参画による病院間の情報共有のオンライン化、経費精算システムの運用開始、職員の身上異動届のWeb申請化などDXの推進を行った。
8. 職員向けの福利厚生イベント・職場環境向上のための備品整備を計画的に行い、職員満足度向上を意識した運営を行った。

課長 松井 克章

学術実績（講演・学会発表）

リハビリテーション科	
区 演 題 名 演者・共同演者 学 会 名 等	講演 リハビリテーション科医とプライマリ・ケア医コラボ企画 活動を支える移動補助具・装具について学ぼう 望月亮ら 第13回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会, 2022
区 演 題 名 演者・共同演者 学 会 名 等	講義 在宅患者のリハビリテーション 望月亮 日本プライマリ・ケア連合学会 総合医育成プログラム, 2022
区 演 題 名 演者・共同演者 学 会 名 等	講演 痙縮はコモディジェーズ！ボツリヌス療法の実際 望月亮 磐周医師会・磐田市医師会学術講演会, 2022
区 演 題 名 演者・共同演者 学 会 名 等	講演 リハビリテーション科医×プライマリケア医のコラボ企画:はじめての在宅リハビリテーション 望月亮ら 第18回 若手医師のための家庭医療学冬期セミナー, 2022
看護部	
区 演 題 名 演者・共同演者 学 会 名 等	学会発表 急性期病院の看護管理者との連携,新型コロナウイルス感染症軽症者への療養に対する支援の経験から 春日三千代 第13回せいいらい看護学会学術集会, 2022.9.10 (土) 聖隷クリストファー大学
区 演 題 名 演者・共同演者 学 会 名 等	学会発表 病棟看護師と訪問看護師による合同カンファレンスが看護過程にもたらす影響 渡邊真智子 第13回せいいらい看護学会学術集会, 2022.9.10 (土) 聖隷クリストファー大学
区 演 題 名 演者・共同演者 学 会 名 等	学会発表 転倒発生の場所と要因の分析～転倒総数が減少しても減らない要因の検討～ 村松亜由美、渡邊真智子 第9回日本転倒予防学会学術集会, 2022.10.15-16 横浜
リハビリテーション室	
区 演 題 名 演者・共同演者 学 会 名 等	講演 生態心理学的概念に基づいた姿勢の捉え方と関わり～WEB インフォメーションコース～ 豊田貴信 クラインフォージェルパッハの運動学と評価の捉え方 2023.3.5 (WEB)
区 演 題 名 演者・共同演者 学 会 名 等	その他 (学会座長) 鈴木琢弥 第4回聖隷リハビリテーション学会 2022.11.27 (WEB)
区 演 題 名 演者・共同演者 学 会 名 等	学会発表 KTバランスチャートを用いた包括的支援の取り組みについて ～多職種支援により自宅退院が可能となった1症例～ 浅野全子、村松麻希、片岡綾子、寺田泉 第28回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会, 2022.9.23-24, 幕張メッセ
区 演 題 名 演者・共同演者 学 会 名 等	学会発表 左視床出血発症3ヶ月後に長下肢装具を作製し4点杖歩行を獲得した症例 荻原旦彩、鈴木琢弥、服部勇輝、松井俊明、則次祐美、佐藤一樹、籠池康太、北矢大典、 神谷康貴、夏目陽香、村松麻希 第4回聖隷リハビリテーション学会 2022.11.27 (WEB)
区 演 題 名 演者・共同演者 学 会 名 等	学会発表 重度左片麻痺を呈した方が家事動作獲得に意識を向けることが出来た関わりの振り返り 鈴木健人、佐野真裕子、高井悠加、古山佳実、森下直彦 第35回静岡県作業療法学会 2022.7.2-3 アクトシティーコンgresセンター
区 演 題 名 演者・共同演者 学 会 名 等	学会発表 注意力低下と失語症を呈した患者に対する更衣動作指導方法の工夫 高橋勇貴 (OT)、夏目陽香、八木翔平、森下直彦、則次祐美、村松麻希・望月亮 第35回静岡県作業療法学会 2022.7.2-3 アクトシティーコンgresセンター

区 演 学	分 題 会	学会発表 実車評価を通して趣味活動の再開に至った事例～テレフォンフォローの関わり～ 田中祐大、八木翔平、森下直彦、籠池康太、村松麻希、望月亮 第4回聖隷リハビリテーション学会 2022.11.27 (WEB)
区 演 学	分 題 会	学会発表 左半側空間無視患者の歩行意欲を訓練に反映し、左側への注意が改善した症例 服部勇輝、鈴木琢弥、松井俊明、則次裕美、佐藤一樹、籠池康太、北矢大典、神谷康貴、夏目陽香 第4回聖隷リハビリテーション学会 2022.11.27 (WEB)
区 演 学	分 題 会	学会発表 回復期病棟において多職種連携により、気管ニューレ抜去、3食経口摂取が可能となった一症例 村松麻希、浅野全子、後藤洗貴、高橋勇貴、横山陽香、望月亮 第4回聖隷リハビリテーション学会 2022.11.27 (WEB)
区 演 学	分 題 会	学会発表 訪問リハビリテーションにて自主練習を見直したことで跛行が改善し、活動範囲の拡大が図れた症例 諸井海斗、小笠原美沙、佐野真裕子、高井悠加、長田圭太郎、佐藤一樹 第4回聖隷リハビリテーション学会 2022.11.27 (WEB)
区 演 学	分 題 会	学会発表 自動車運転希望の患者に対しての病識改善に向けての提供課題難易度の決定 八木晴菜、松井俊明、長田圭太郎、橋内ひとみ、八木翔平、田中祐大、望月亮 第4回聖隷リハビリテーション学会 2022.11.27 (WEB)
区 演 学	分 題 会	学会発表 重度片麻痺患者が蜂窩織炎後に歩行困難となり、リハビリ見学を通して障害受容が進化した一症例 吉川紗也加、鈴木美穂子、岡田史郎、中山祥子、藤田智大、福川竜也、石川平、岩倉由実、奥田莉奈、松尾遼太 第4回聖隷リハビリテーション学会 2022.11.27 (WEB)
地域における講演		
区 演 学	分 題 会	講演 もっとも～っと知ってほしい！聖隷袋井市民病院のこと、もっと知りたい！地域のこと 内山安寿佳、植村尚美、佐野真裕子、平岩佳奈美 地域ケア座談会、袋井市, 2022.10.25 (WEB)
区 演 学	分 題 会	講演 聖隷袋井市民病院における袋井市事業『しぞーかでん伝体操出張派遣指導の取り組みと課題』 岡田史郎（リハビリテーション室） 地域リハビリテーション推進研修会、袋井市, 2022.12.9
区 演 学	分 題 会	講演 Light に始める ACP - こころのノートを使ってみよう- 望月亮（リハビリテーション科） 令和4年度袋井市介護保険研究会研修会、袋井市, 2022.5.20
区 演 学	分 題 会	講演 こころのノート ～袋井市が目指すライトな ACP～ 望月亮 令和4年度介護保険主治医意見書研修会、磐周医師会, 2023.3.2
区 演 学	分 題 会	講演 『こころのノート』～気軽に始める ACP（人生会議）～ 望月亮（リハビリテーション科） 令和4年度市民向け ACP 出張講座, 2022.11.11 および 2023.1.13
区 演 学	分 題 会	講演 ライトな ACP『こころのノート』のトリセツ 望月亮（リハビリテーション科） 令和4年度第1回袋井市在宅医療・介護連携推進事業研修会, 2022.8.23
区 演 学	分 題 会	講演 『こころのノート』～それぞれの場所で実践する ACP～ 望月亮（リハビリテーション科） 令和4年度第2回袋井市在宅医療・介護連携推進事業研修会, 2023.1.23
区 演 学	分 題 会	講演 効果的な転倒予防体操（実技） 鈴木琢弥（リハビリテーション室） 地域リハビリテーション活動支援事業, 袋井市, 2023.3.16

学術実績（著書・論文）

リハビリテーション科	
区 分	論文投稿
演 題 名	在宅診療とリハ、プライマリ・ケアの理論と実践
演者・共同演者	望月亮
学 会 名 等	日本医事新報, No.5114, 2022
リハビリテーション室	
区 分	論文投稿
演 題 名	医療療養型病床の特徴と健康関連 QOL との関係―単施設における予備的研究―
演者・共同演者	佐野哲也 ¹⁾ 、泉良太 ¹⁾ 、佐野真裕子 ²⁾ 1) 聖隷クリストファー大学, 2) 聖隷袋井市民病院
学 会 名 等	リハビリテーション科学ジャーナル, 2022.9
区 分	著書
演 題 名	はじめてのリハビリテーション臨床倫理ポケットマニュアル P.145~154 執筆
著 者	豊田貴信
学 会 名 等	医歯薬出版株式会社 発行年月 2023 年 1 月

教育実績

【階層別研修】

■新入職員導入研修

ねらい	聖隷袋井市民病院が目指す医療を理解する
開催日	2022 年 4 月 1 日（金）
会場	聖隷袋井市民病院
参加人数	12 名（施設間異動者、中途採用者含む）

■新入職員研修

ねらい	就職してからの 2 か月をふりかえり、組織の一員として自分が果たしていく役割を確認する
開催日	2022 年 6 月 2 日（木）・3 日（金）または 6 月 9 日（木）・10 日（金）
会場	グランドホテル浜松
参加人数	9 名

■1 年目職員フォローアップ研修

ねらい	① チームメンバーであることを自覚し、責任を持って自らの役割を果たすことの意義を理解する ② 自分を成長させるために今後取り組むことを見出す
開催日	2022 年 11 月 1 日（火）または 11 月 2 日（水）
会場	聖隷研修センター
参加人数	9 名

■2 年目職員研修

ねらい	① チームにおける自分の役割に気づき、自分の取り組むべきことを見出す ② 後輩指導をする時に大切にすべきことがわかる
開催日	2022 年 11 月 1 日また
会場	聖隷研修センター
参加人数	5 名

■中堅職員研修

ねらい	① チームの中でリーダーシップを発揮するために必要な知識・技術を学ぶ ② 自分を成長するために取り組むことを見出す
開催日	1 回目：2022 年 6 月 16 日（木）・17 日（金）または 6 月 23 日（木）・24 日（金） 2 回目：2022 年 9 月 15 日（木）または 9 月 22 日（木）
会場	1 回目：グランドホテル浜松 2 回目：聖隷研修センター
参加人数	8 名

■ウェルカム研修

ねらい	① 聖隷福祉事業団の一員としての自覚を持つ ② チームに貢献するために自分がすべきことを見つける
開催日	2022 年 10 月 19 日（水）または 11 月 22 日（火）
会場	聖隷研修センター
参加人数	5 名

■キャリアデザイン職員研修

ねらい	① 世の中の顧客ニーズの変化や事業団の活動の広がりを知った上で、自己成長や事業団の中での自分の活躍のイメージを広げ、将来のビジョンを具体化してみる ② 自己の強みと弱みを整理することで、現状の自分を客観的に把握する ③ 「現状」と「将来のビジョン」のギャップを分析し、自己成長や自分の明るい未来のために、これから何をしていくべきなのかを段階的・構造的に整理し、明日からの行動に役立てる
開催日	2022年7月8日(金)または7月12日(火)または7月15日(金)またはWEB
会場	法人本部7階研修室
参加人数	14名

【NR研修(看護部・リハビリテーション室)】

■プリセプター導入研修

ねらい	プリセプターとして、新人職員の支援を行なうために必要な知識や役割を学ぶ
目標	1) プリセプターシステムとプリセプターの役割が理解できる 2) 新入職員の特性や個性を理解できる 3) 支援スキルについて理解できる 4) 自分がプリセプターとして大切にしたいことを確認する
開催日	2023年3月7日(火) 13:15~17:00
参加人数	8名

【委員会主催研修(e-learning含む)】

医療安全管理委員会	
タイトル	第1回医療安全講習会 磨け! コミュカ! 医療安全のためのコミュニケーション
開催日	9月16日~30日
対象	必修:全職員(197名 休職除く)
参加人数	183名:98%
タイトル	第2回医療安全講習会 ①患者誤認を防ぐ ②コードホワイト(不審者対応)
開催日	2023年2月21日~3月8日
対象	必修:全職員(190名 休職除く)
参加人数	190名:100%
タイトル	BLS講習会
開催日	5月~3月(職場毎開催)
対象	必修:全職員(187名 休職除く)
参加人数	175名:94%
タイトル	リスクマネージャー講習会「リスクマネージャーに必要な医療安全の基礎知識」
開催日	2023年1月30日
対象	役職者
参加人数	18名
タイトル	放射線業務従事者研修
開催日	2023年3月10日~25日
対象	放射線業務従事者、医師(必修20名)、放射線管理区域一時立ち入りの可能性がある者(任意69名)
参加人数	必修20名:100% 任意46名:67%
タイトル	新入職員導入研修 医療安全管理について
開催日	2022年4月1日
対象	新入職員
参加人数	13名
タイトル	看護部異動・中途採用者研修 医療安全について
開催日	2022年10月3日
対象	看護部所属異動・中途採用者
参加人数	7名
院内感染対策委員会	
タイトル	当院における新型コロナウイルス診療の現状と今後の見通しについて
開催日	7月12日・7月19日・8月19日・8月23日
対象	必修:全職員(197名 休職除く)
参加人数	179名(伝達講習レポート提出18名):100% *その他委託業者、袋井市職員9名参加
タイトル	新型コロナウイルスにおける今後の展望~ワクチン接種を中心に~
開催日	11月25日・11月29日・12月2日・12月6日
対象	必修:全職員(193名 休職除く)
参加人数	173名(伝達講習レポート提出20名):100% *その他委託業者、袋井市職員15名参加

タイトル 開催日 対象 参加人数	院内感染対策の基礎～手指衛生・感染防護具～ 4月22日・4月26日 新入職員 13名
医療ガス安全管理委員会	
タイトル 開催日 対象 参加人数	酸素 安全に使用するために 11月11日 資料配信 全職員193名 187名
診療記録管理委員会（情報システム委員会）	
タイトル 開催日 対象 参加人数	個人情報の保護（動画視聴） 6月16日配信 全職員 ※個人情報保護委員会と合同開催
個人情報保護委員会	
タイトル 開催日 対象 参加人数	個人情報の保護（動画視聴） 6月16日配信 全職員 ※診療記録管理委員会と合同開催
タイトル 開催日 対象 参加人数	プライバシー保護と個人情報保護 9月6日（火）・9月13日（火） 全職員 -
倫理委員会	
タイトル 開催日 対象 参加人数	臨床倫理入門－患者の権利の尊重とは－ 9月20日・9月27日 全職員 -
利用者満足度向上委員会	
タイトル 開催日 対象 参加人数	接遇マナーの基本『あいさつ』で変わるおもてなしの心（e-learning） 10月24日～11月25日 全職員 受講率81%
在宅支援会議	
タイトル 開催日 対象 参加人数	第2回在宅医療勉強会 10月27日 全職員 44名（うち、聖隷訪問看護ステーション富丘・聖隷ケアプランセンター森町より8名）
タイトル 開催日 対象 参加人数	在宅医療勉強会・訪問看護出向事業報告会 2月22日 全職員、袋井市内居宅介護支援事業所 56名（うち、ルビナス袋井2名） + 12事業所（Web参加）

【実習生受入れ】

聖隷クリストファー大学	リハビリテーション学部理学療法学科		8名
聖隷クリストファー大学	リハビリテーション学部作業療法学科		5名
豊橋創造大学	保健医療学部理学療法学科		1名
常葉大学（静岡）	健康科学学部理学療法学科		2名
常葉大学（浜松）	保健医療学部作業療法学科		3名
常葉大学	健康プロデュース学部健康栄養学科		2名
静岡医療科学専門学校	理学療法科		1名
静岡医療科学専門学校	理学療法科		1名
東海アクシス看護専門学校	看護学科（3年生）	老年看護学実習Ⅰ	6名
東海アクシス看護専門学校	看護学科（2年生）	老年看護学実習Ⅰ	5名
東海アクシス看護専門学校	看護学科（1年生）	マネジメント実習	6名
聖隷福祉事業団法人本部	特定行為研修	気管カニューレ交換	2名
大原簿記専門学校浜松校			3名

「2022 年度 袋井市立聖隷袋井市民病院年報」第 1 号 2024 年 1 月

〒437-0061 静岡県袋井市久能 2515 番地の 1

TEL 0538-41-2777 FAX 0538-41-2813

URL <https://www.seirei.or.jp/fukuroi/index.html>

発行者 林泰広

編集者 事務課